

# 第I章 生活設計と生活保障意識

## 1. 生活設計意識

ここでは、人々が自分自身や家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうしたらよいかといった、具体的な生活設計の有無と、どのくらい先のことまでについて考えているのかを捉えている。

### (1) 生活設計の有無

自分や家族の将来のために具体的な生活設計を立てているかどうかを捉えるため、以下のように尋ねた。

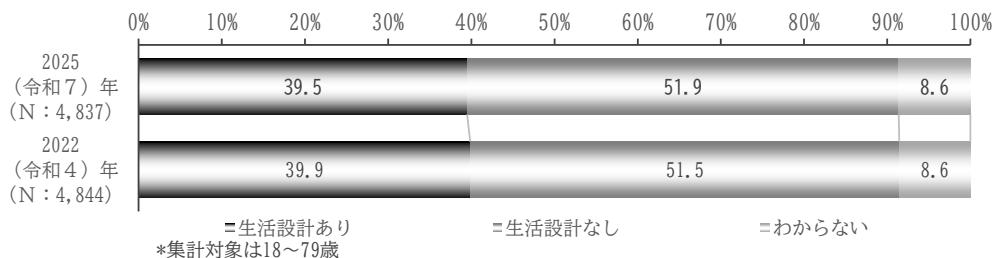
あなたは、ご自身やご家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうしたらよいかといった、具体的な生活設計を立てていますか。

- |       |       |            |
|-------|-------|------------|
| はい    | ..... | 以下「生活設計あり」 |
| いいえ   | ..... | 以下「生活設計なし」 |
| わからない |       |            |

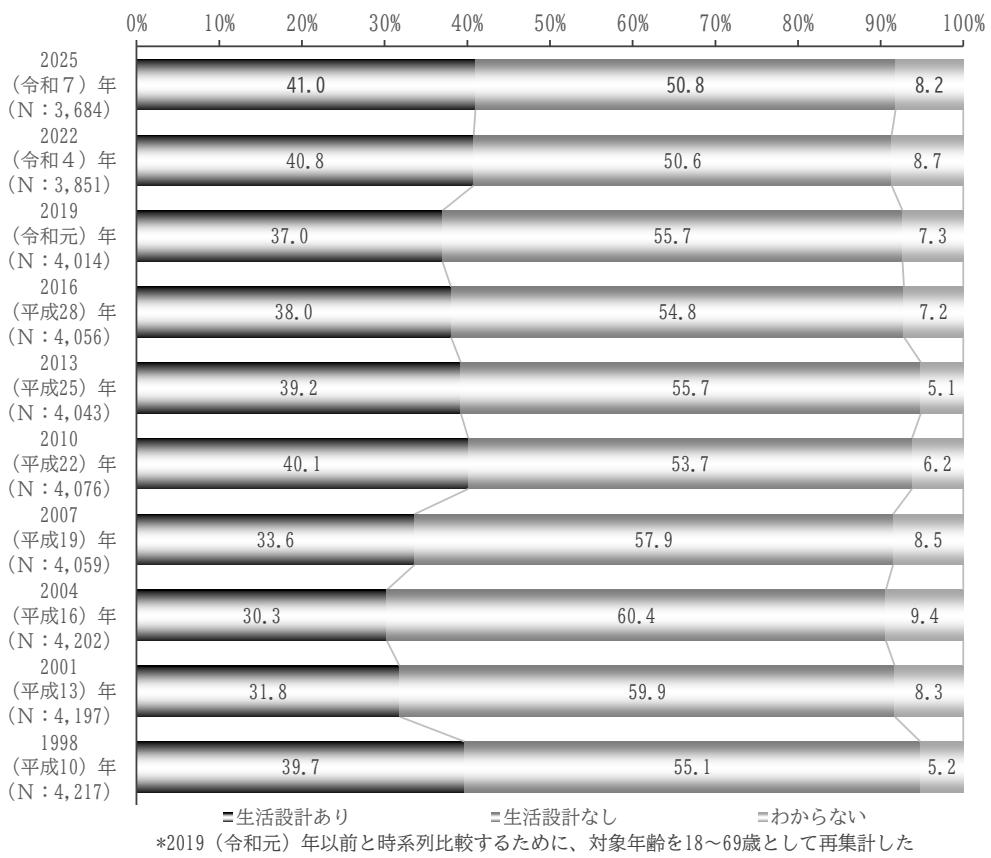
その結果、「生活設計あり」と回答した人は 39.5%、「生活設計なし」とした人は 51.9%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表 I-1)

<図表 I-1> 生活設計の有無



【参考】時系列でみると、「生活設計あり」は2019（令和元）年以降、増加傾向がみられる。



性別に見ると、「生活設計あり」は男性で高くなっている。

性・年齢別にみると、「生活設計あり」は男女とも60歳代で高く、男性では40歳代、女性では30歳代でも高くなっている。（図表I-2）

<図表I-2> 生活設計の有無〔性・年齢別〕

	N	生活設計あり	生活設計なし	わからない	(単位: %)
男 性	2,101	42.2	50.2	7.6	
20歳代	181	37.6	52.5	9.9	
30歳代	225	38.7	51.6	9.8	
40歳代	363	49.3	44.4▲	6.3	
50歳代	406	41.6	51.5	6.9	
60歳代	404	50.5	44.6▲	5.0▲	
70歳代	485	35.5▲	56.3	8.2	
女 性	2,736	37.4	53.1	9.4	
20歳代	165	24.2▲	65.5	10.3	
30歳代	282	42.9	47.9	9.2	
40歳代	438	38.1	54.1	7.8	
50歳代	576	38.2	53.0	8.9	
60歳代	579	42.1	49.2▲	8.6	
70歳代	668	34.3	54.5	11.2	

性・世帯年収別にみると、「生活設計あり」は男女とも高年収層ほど高くなっている。(図表 I-3)

<図表 I-3> 生活設計の有無〔性・世帯年収別〕

(単位: %)

	N	生活設計あり	生活設計なし	わからない
男 性	2,101	42.2	50.2	7.6
300 万 円 未 満	569	26.7▲	64.1	9.1
300 ~ 500 万 円 未 満	448	40.4	52.9	6.7
500 ~ 700 万 円 未 満	295	48.5	45.4	6.1
700 ~ 1,000 万 円 未 満	247	56.3	39.3▲	4.5▲
1,000 万 円 以 上	176	77.3	18.2▲	4.5
女 性	2,736	37.4	53.1	9.4
300 万 円 未 満	754	30.4▲	58.9	10.7
300 ~ 500 万 円 未 満	476	37.4	55.9	6.7▲
500 ~ 700 万 円 未 満	340	39.7	54.1	6.2▲
700 ~ 1,000 万 円 未 満	276	52.9	39.9▲	7.2
1,000 万 円 以 上	168	60.7	32.7▲	6.5

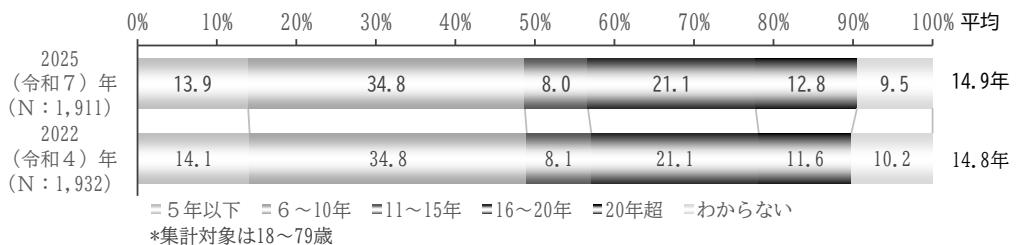
## (2) 生活設計の期間

「生活設計あり」と回答した人に、「それはだいたい何年ぐらい先のことまでですか」と尋ねたところ、平均期間は14.9年となっている。

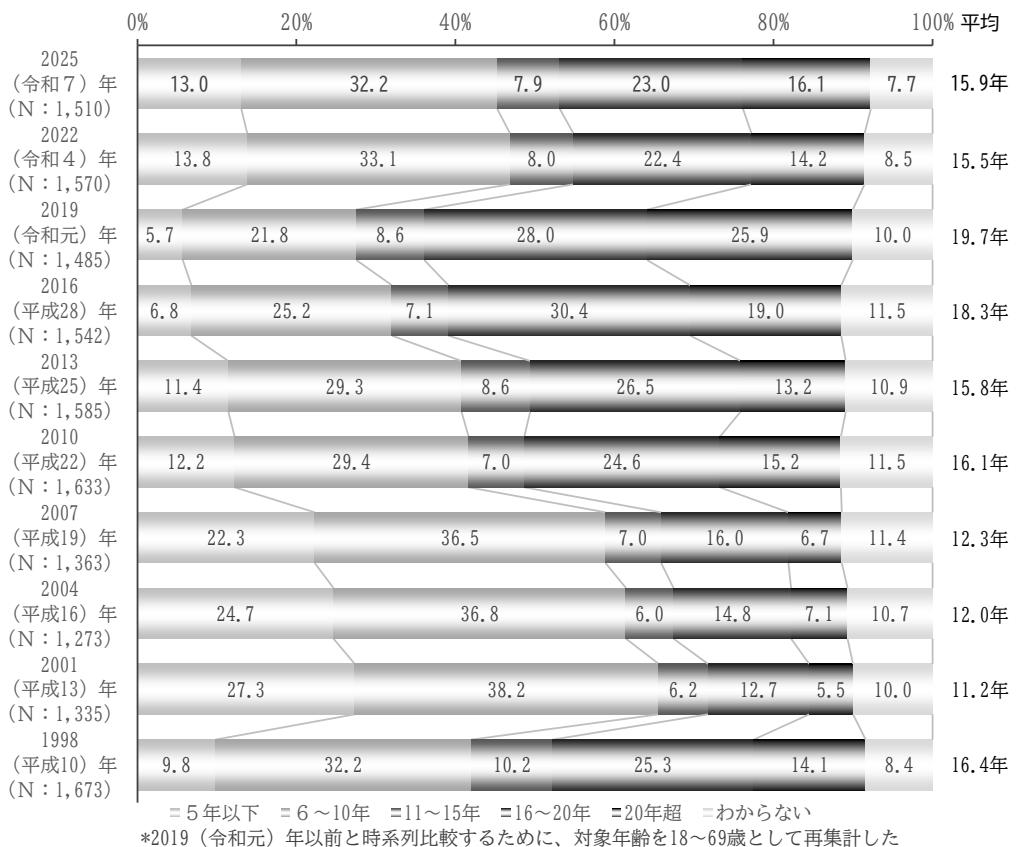
期間の分布をみると、「6~10年」が34.8%で最も多く、以下「16~20年」(21.1%)、「5年以下」(13.9%)となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表 I-4)

<図表 I-4> 生活設計の期間



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



平均期間を性別にみると、男性では15.4年、女性では14.6年となっている。

期間の分布をみると、男女とも20歳代では「5年以下」が高く、70歳代では「6～10年」が高い。また、男性30～40歳代、女性30歳代、50歳代では「20年超」が高く、男性の30～40歳代、女性の60歳代では「16～20年」が高くなっている。(図表I-5)

<図表I-5> 生活設計の期間〔性・年齢別〕

	N	5年以下	6～10年	11～15年	16～20年	20年超	わからない	平均(年)
男性	887	13.0	34.2	8.6	21.3	13.9	9.1	15.4
20歳代	68	30.9	33.8	1.5▲	8.8▲	13.2	11.8	14.1
30歳代	87	6.9	23.0▲	6.9	29.9	26.4	6.9	19.9
40歳代	179	6.1▲	27.4▲	10.6	27.4	22.9	5.6	18.7
50歳代	169	8.3▲	37.9	8.9	23.1	17.8	4.1▲	15.9
60歳代	204	17.2	31.9	8.8	23.0	9.8	9.3	13.9
70歳代	172	13.4	47.1	9.3	12.8▲	0.0▲	17.4	11.1
女性	1,024	14.7	35.4	7.4	20.9	11.8	9.8	14.6
20歳代	40	45.0	30.0	5.0	5.0▲	10.0	5.0	10.8
30歳代	121	7.4▲	23.1▲	9.1	23.1	26.4	10.7	20.0
40歳代	167	11.4	32.9	9.6	24.6	15.0	6.6	15.8
50歳代	220	11.8	35.9	4.1▲	19.5	19.5	9.1	15.8
60歳代	244	13.5	36.1	8.2	27.5	6.6▲	8.2	13.9
70歳代	229	20.1	42.8	7.4	14.4▲	0.4▲	14.8	10.9

### (3)生活設計を立てない理由

「生活設計なし」と回答した人に、その理由を以下のように尋ねた。

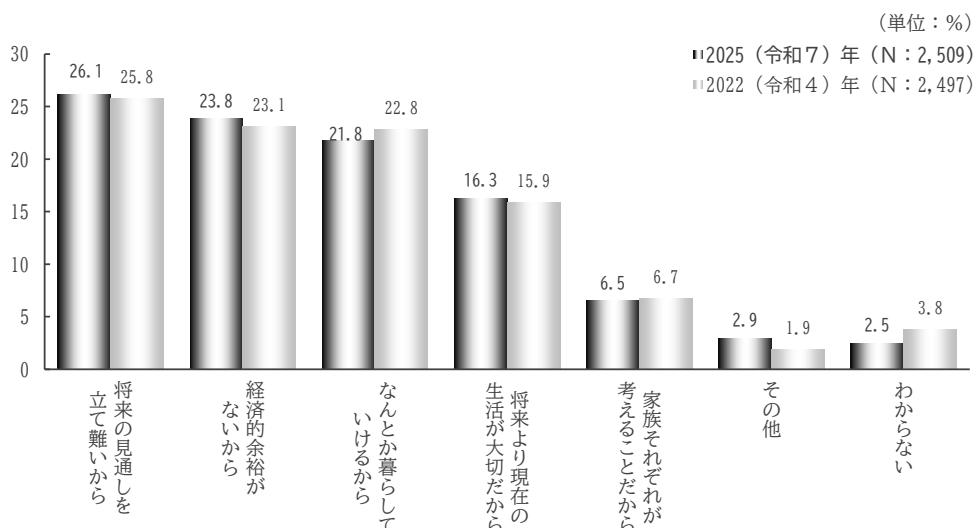
あなたが具体的な生活設計を立てていない理由は何ですか。この中で最も近いと思うものを1つ選んでお答えください。

(ア) 収入や支出などの将来の見通しを立てることが難しいから .....以下「将来の見通しを立て難いから」  
 (イ) 将来に備えるための経済的な余裕がないから .....以下「経済的余裕がないから」  
 (ウ) 生活設計を立てなくとも、なんとか暮らしていくから .....以下「なんとか暮らしていくから」  
 (エ) 将来よりも現在の生活を充実させることの方が大切だから .....以下「将来より現在の生活が大切だから」  
 (オ) 家族がそれぞれで考えるべきことだから .....以下「家族それぞれが考えることだから」  
 (カ) その他  
 わからない

その結果、「将来の見通しを立て難いから」が26.1%と最も高く、以下「経済的余裕がないから」(23.8%)、「なんとか暮らしていくから」(21.8%)、「将来より現在の生活が大切だから」(16.3%)の順となっている。

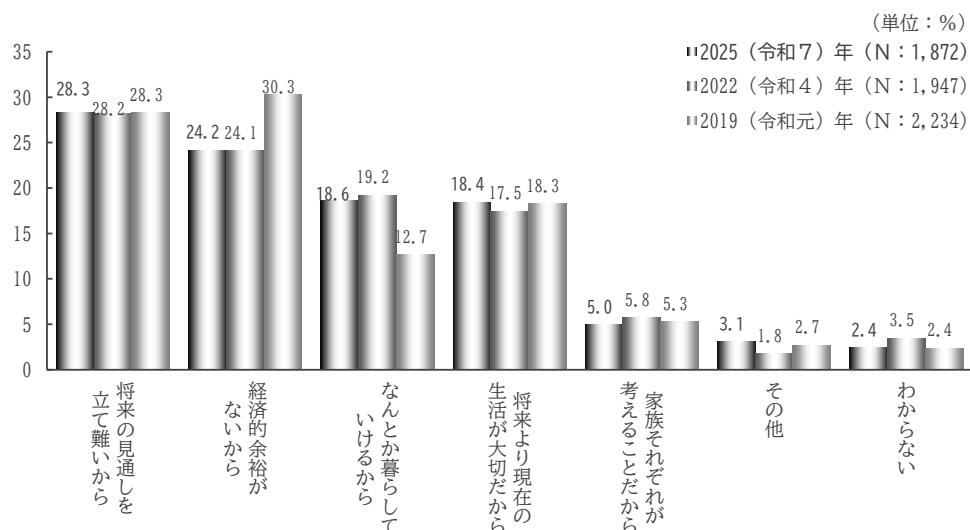
前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表I-6)

<図表I-6> 生活設計を立てない理由



\*集計対象は18~79歳

【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



\*2019 (令和元) 年以前と時系列比較するために、対象年齢を18~69歳として再集計した

性別にみると男性で「なんとか暮らしていけるから」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「なんとか暮らしていけるから」は概ね高年齢層ほど高くなる傾向がみられる。また、男女とも「将来より現在の生活が大切だから」は20歳代と40歳代で、「家族それぞれが考えることだから」は70歳代で、それぞれ高くなっている。一方、「将来の見通しを立て難いから」は男性20歳代、女性50~60歳代で、「経済的余裕がないから」は男性50歳代、女性40~50歳代で、それぞれ高くなっている。(図表I-7)

<図表I-7> 生活設計を立てない理由 [性・年齢別]

		(単位: %)							
	N	立てて来る難のい見か通りに暮らしていけるから	いき經濟的余裕がな	てないんけとるか暮らし	ら生活がよ大り切現だ在かの	ら将活來るそこれとぞだれかが	ら考家族のそれぞれだれかが	その他	わからぬ
男性	1,055	27.0	21.9	24.3	14.8	5.9	3.9	2.3	
20歳代	95	36.8	16.8	7.4▲	23.2	6.3	7.4	2.1	
30歳代	116	27.6	24.1	20.7	18.1	3.4	3.4	2.6	
40歳代	161	25.5	24.2	21.1	23.0	2.5▲	3.1	0.6	
50歳代	209	25.8	27.8	24.4	12.0	4.8	2.9	2.4	
60歳代	180	32.8	17.2	32.2	10.0▲	3.9	1.7	2.2	
70歳代	273	21.6▲	21.6	29.3	9.2▲	11.0	4.0	3.3	
女性	1,454	25.5	25.2	19.9	17.4	7.0	2.3	2.6	
20歳代	108	21.3	10.2▲	13.9	35.2	6.5	5.6	7.4	
30歳代	135	28.9	23.0	19.3	19.3	3.7	3.0	3.0	
40歳代	237	23.6	32.5	14.3▲	22.8	3.8▲	0.8	2.1	
50歳代	305	30.2	31.1	13.1▲	15.4	4.9	2.6	2.6	
60歳代	285	30.5	22.1	20.0	15.1	8.4	2.5	1.4	
70歳代	364	18.4▲	23.6	32.4	10.7▲	11.3	1.4	2.2	

## 2. 将来のライフイベントと経済的準備状況

### (1) 想定される将来のライフイベント

自分や家族の将来のライフイベントとして想定していることを捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ご自身やご家族の将来のライフイベントとして考えていることはどれですか。この中からいくつでもお選びください。

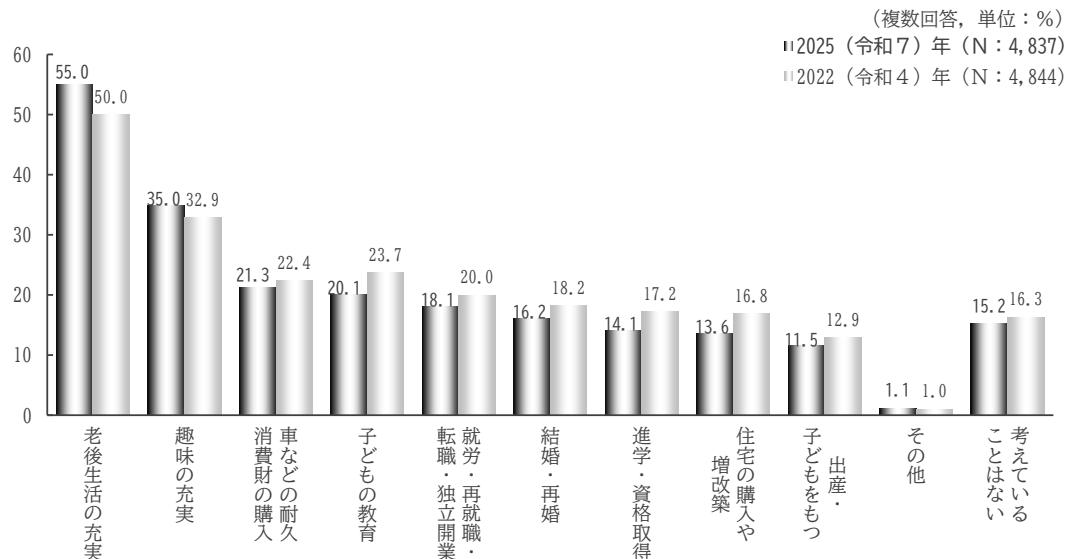
それでは、今お答えいただいた中で、最も重要なライフイベントを1つだけお選びください。

- (ア) 就労・再就職・転職・独立開業
  - (イ) 進学・資格取得
  - (ウ) 結婚・再婚
  - (エ) 出産・子どもをもつ
  - (オ) 子どもの教育
  - (カ) 住宅の購入や増改築
  - (キ) 車などの耐久消費財の購入
  - (ク) 趣味の充実
  - (ケ) 老後生活の充実
  - (コ) その他
- 考えていることはない

その結果、「老後生活の充実」が55.0%で最も高く、以下「趣味の充実」(35.0%)、「車などの耐久消費財の購入」(21.3%)、「子どもの教育」(20.1%)、「就労・再就職・転職・独立開業」(18.1%)の順となっている。

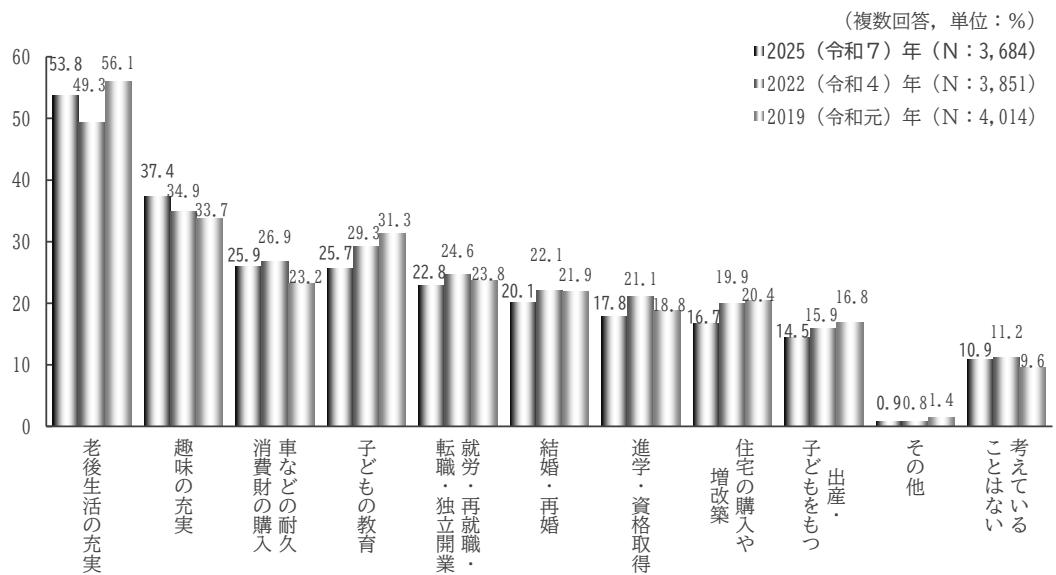
前回と比較すると、「老後生活の充実」が5.0ポイント増加し、「子どもの教育」が3.6ポイント、「住宅の購入や増改築」が3.2ポイント、「進学・資格取得」が3.1ポイント、それぞれ減少している。  
(図表 I-8)

<図表 I-8> 想定される将来のライフイベント



\*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でみると、「趣味の充実」が増加傾向であり、「子どもの教育」が一貫して減少している。



\*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

性別にみると、男性で「車などの耐久消費財の購入」が、女性で「老後生活の充実」が、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「就労・再就職・転職・独立開業」、「結婚・再婚」、「進学・資格取得」、「住宅の購入や増改築」、「出産・子どもをもつ」は概ね若年齢層ほど高く、「老後生活の充実」は高年齢層ほど高くなっている。また、「子どもの教育」は男性の30～40歳代、女性の20～40歳代で高くなっている。（図表I-9）

図表I-9 想定される将来のライフイベント [性・年齢別]

		N	老後生活の充実	趣味の充実	車などの耐久消費財の購入	子どもの教育	転職・独立開業	就労・再就職	結婚・再婚	進学・資格取得	改築の購入や増	もつ・子どもを	出産・	その他の	は考 な い い る こ と
男性	2,101	51.3	35.7	23.7	19.5	18.2	16.0	13.5	13.6	10.5	1.1	15.8			
20歳代	181	18.8▲	49.2	33.7	24.9	39.8	40.9	19.9	22.1	28.7	0.6	9.9▲			
30歳代	225	33.3▲	36.9	29.8	42.2	25.3	19.1	24.0	20.9	20.0	0.0	12.4			
40歳代	363	47.4	38.0	34.2	44.4	23.1	19.0	25.9	20.7	12.1	1.1	8.5▲			
50歳代	406	58.6	37.4	30.8	17.2	20.9	18.0	13.8	14.8	9.4	0.7	11.6▲			
60歳代	404	66.3	34.9	17.8▲	4.7▲	11.4▲	9.9▲	3.7▲	8.9▲	5.0▲	1.0	16.3			
70歳代	485	58.8	28.0▲	8.2▲	2.9▲	3.7▲	4.1▲	2.3▲	3.9▲	2.1▲	2.3	28.2			
女性	2,736	57.9	34.4	19.4	20.6	18.0	16.3	14.7	13.6	12.3	1.2	14.7			
20歳代	165	26.7▲	43.0	24.2	31.5	42.4	50.9	23.0	26.1	46.1	0.0	6.7▲			
30歳代	282	42.2▲	29.8	31.2	59.9	30.9	22.0	30.1	20.2	23.4	0.0	7.4▲			
40歳代	438	53.2▲	33.1	32.2	51.6	29.2	22.4	35.6	19.6	15.3	0.7	5.0▲			
50歳代	576	65.1	41.5	24.8	13.5▲	21.7	19.8	11.8▲	18.4	12.3	1.0	11.3▲			
60歳代	579	71.7	36.4	14.2▲	4.0▲	8.6▲	9.2▲	4.1▲	8.8▲	6.4▲	1.9	14.5			
70歳代	668	59.1	26.5▲	5.1▲	1.6▲	2.5▲	3.3▲	2.4▲	3.4▲	1.8▲	1.8	29.5			

性・ライフステージ別にみると、「子どもの教育」、「進学・資格取得」は男女ともに“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で高くなっている。また、「老後生活の充実」は男女とも“既婚・末子短大・大学・大学院生”から“既婚・子どもすべて卒業(既婚)”で高く、男性では“既婚・子どもなし”でも高い。「住宅の購入や増改築」は男性では“既婚・末子未就学児”、“既婚・末子中学生、高校生”で、女性では“既婚・子どもなし”から“既婚・末子短大・大学・大学院生”で、「結婚・再婚」は男性では“未婚”および“既婚・末子・中学生、高校生”、“既婚・末子短大・大学・大学院生”で、女性では“未婚”および“既婚・末子小学生”から“既婚・末子短大・大学・大学院生”で、それぞれ高くなっている。(図表 I-10)

<図表 I-10> 想定される将来のライフイベント [性・ライフステージ別]

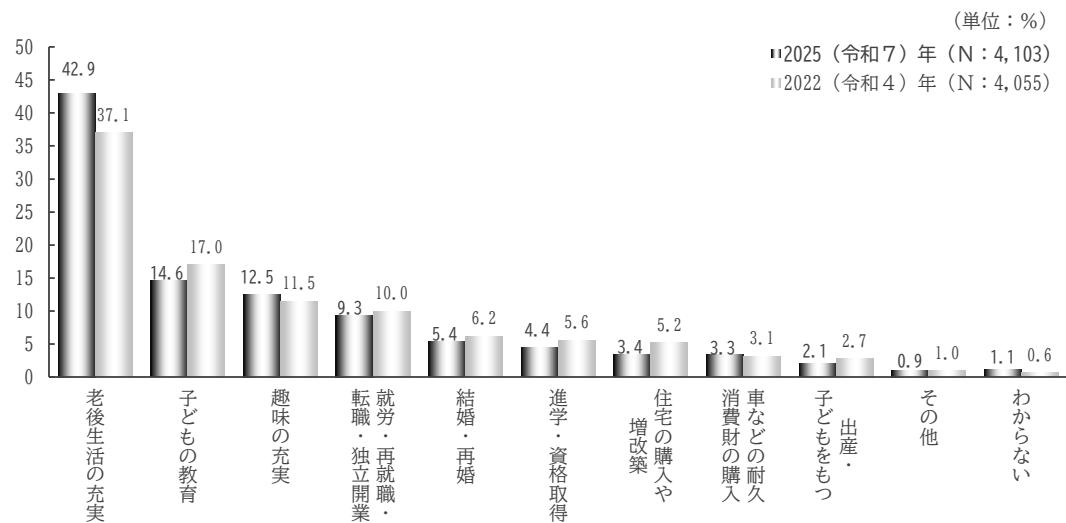
		N	老後生活の充実	趣味の充実	費車などの購入耐久消	子どもの教育	転職労・独立再就職開業	結婚・再婚	進学・資格取得	改築住宅の購入や増	も出つ産・子どもを	その他	(複数回答、単位: %)
性	性												
男	性	2,101	51.3	35.7	23.7	19.5	18.2	16.0	13.5	13.6	10.5	1.1	15.8
未	婚	576	29.2▲	(40.5)	23.6	8.0▲	(26.7)	(25.2)	12.5	14.4	12.2	0.3▲	(20.5)
既婚	・子どもなし	180	(58.3)	35.0	21.1	6.7▲	15.0	3.9▲	4.4▲	15.0	13.3	0.6	18.9
既婚	・末子未就学児	144	47.2	30.6	(43.8)	(86.8)	20.8	13.2	(38.9)	(27.8)	(22.9)	0.0	2.8▲
既婚	・末子小学生	138	55.1	37.0	(34.8)	(74.6)	21.0	18.8	(37.7)	18.1	12.3	0.0	6.5▲
既婚	・末子中学生、高校生	139	53.2	33.8	(33.1)	(54.0)	(29.5)	(28.1)	(41.7)	(19.4)	(18.7)	0.7	3.6▲
既婚	・末子短大・大学・大学院生	70	(71.4)	41.4	(34.3)	21.4	(30.0)	(32.9)	14.3	17.1	15.7	1.4	4.3▲
既婚	・子どもすべて卒業(未婚)	448	(67.2)	36.2	20.8	2.5▲	12.3▲	14.1	2.7▲	11.4	6.7▲	(2.2)	13.8
既婚	・子どもすべて卒業(既婚)	366	(59.3)	29.5▲	12.3▲	4.1▲	5.2▲	2.7▲	3.0▲	3.6▲	1.9▲	(2.2)	(23.8)
女	性	2,736	57.9	34.4	19.4	20.6	18.0	16.3	14.7	13.6	12.3	1.2	14.7
未	婚	362	36.2▲	(42.8)	14.9▲	10.5▲	(31.5)	(37.0)	15.5	16.0	(24.3)	0.3	14.9
既婚	・子どもなし	200	58.0	(41.0)	(25.0)	8.5▲	16.0	2.0▲	7.0▲	(18.5)	11.5	1.0	(20.0)
既婚	・末子未就学児	196	43.9▲	29.6	(37.8)	(81.1)	(30.1)	14.3	(34.7)	(19.9)	(23.0)	0.0	3.6▲
既婚	・末子小学生	229	47.2▲	29.7	(35.4)	(79.5)	(27.5)	(23.1)	(46.3)	(22.3)	15.7	0.4	2.2▲
既婚	・末子中学生、高校生	200	57.5	29.0	(32.0)	(51.5)	(34.5)	(27.5)	(41.5)	(20.0)	(18.0)	0.5	4.0▲
既婚	・末子短大・大学・大学院生	123	(69.1)	(43.9)	(27.6)	18.7	(35.0)	(29.3)	16.3	(19.5)	16.3	0.8	6.5▲
既婚	・子どもすべて卒業(未婚)	721	(68.1)	35.9	16.0▲	2.9▲	10.4▲	15.7	3.5▲	12.5	9.4▲	1.8	15.3
既婚	・子どもすべて卒業(既婚)	647	(65.1)	30.1▲	7.9▲	2.6▲	4.8▲	2.8▲	4.3▲	4.5▲	2.9▲	1.7	(23.2)

## (2) 最も重要なライフイベント

最も重要なライフイベントについてみると、「老後生活の充実」が 42.9%で最も高く、以下「子どもの教育」(14.6%)、「趣味の充実」(12.5%)、「就労・再就職・転職・独立開業」(9.3%)、「結婚・再婚」(5.4%) の順となっている。

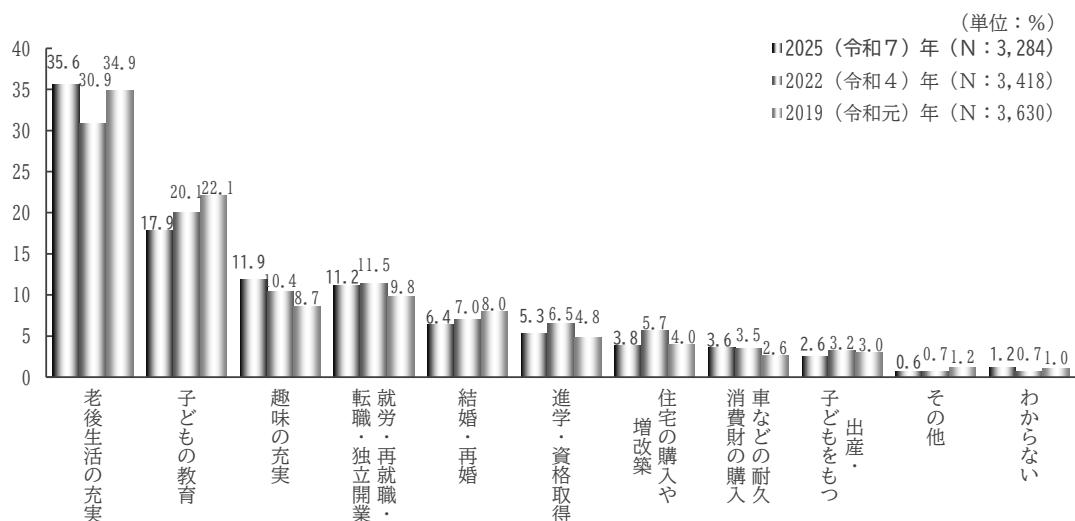
前回と比較すると、「老後生活の充実」が 5.8 ポイント増加し、「子どもの教育」が 2.4 ポイント減少している。(図表 I-11)

<図表 I-11> 最も重要なライフイベント



\*集計対象は18~79歳

【参考】時系列でみると、「子どもの教育」が一貫して減少している。



\*2019 (令和元) 年以前と時系列比較するために、対象年齢を18~69歳として再集計した

性別にみると、男性で「趣味の充実」、「就労・再就職・転職・独立開業」、「車などの耐久消費財の購入」が、女性で「老後生活の充実」が、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、男女ともに「出産・子どもをもつ」は20~30歳代で、「子どもの教育」は30~40歳代で、「老後生活の充実」は60~70歳代で、それぞれ高くなっている。また、「結婚・再婚」は男性では20~30歳代、女性では20歳代で高くなっている。(図表 I-12)

<図表 I-12> 最も重要なライフイベント [性・年齢別]

(単位: %)

	N	老後生活の充実	子どもの教育	趣味の充実	転就職労・・独立再就職開業・	結婚・再婚	進学・資格取得	改築住宅の購入や増	費車財などの購入耐久消	もつ出産・子どもを	その他	わからぬ
男 性	1,769	39.5	14.2	13.7	11.0	6.0	3.8	3.8	4.2	2.1	0.8	0.7
20歳代	163	3.7▲	4.9▲	19.0	25.8	19.0	8.0	3.7	6.7	8.0	0.0	1.2
30歳代	197	6.6▲	35.5	11.7	11.7	11.2	7.1	7.6	4.1	4.1	0.0	0.5
40歳代	332	20.2▲	34.6	13.0	10.5	4.2	6.0	4.2	2.4	2.4	0.9	1.5
50歳代	359	42.3	11.7	12.5	13.1	4.7	2.8	4.7	5.8	1.1	0.6	0.6
60歳代	338	64.5	2.1▲	13.3	7.7▲	3.6▲	0.9▲	2.4	3.6	0.9	0.9	0.3
70歳代	348	69.5	2.6▲	15.2	2.3▲	1.4▲	0.9▲	1.7▲	3.4	0.3▲	2.0	0.6
女 性	2,334	45.5	14.9	11.6	8.1	4.9	4.9	3.0	2.7	2.1	1.0	1.4
20歳代	154	3.2▲	8.4▲	14.9	22.7	28.6	4.5	3.9	0.6	9.7	0.0	3.2
30歳代	261	8.8▲	46.4	5.7▲	12.6	4.2	9.2	3.4	1.9	6.9	0.0	0.8
40歳代	416	21.9▲	39.7	7.0▲	8.9	3.1	11.5	1.9	3.1	0.7▲	0.5	1.7
50歳代	511	49.7	7.8▲	12.1	10.0	4.9	3.7	4.9	3.9	1.2	0.8	1.0
60歳代	495	68.7	1.2▲	14.1	2.8▲	2.4▲	0.2▲	3.0	3.2	1.0	1.4	1.8
70歳代	471	74.3	0.4▲	14.6	1.5▲	1.5▲	1.3▲	1.5▲	1.7	0.2▲	2.1	0.8

性・ライフステージ別にみると、男女とも「子どもの教育」は“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で高く、「進学・資格取得」は女性の“既婚・末子未就学児”および男女とも“既婚・末子小学生”から“既婚・末子中学生、高校生”の層でそれぞれ高くなっている。また、「老後生活の充実」は男性の“既婚・子どもなし”および男女とも“既婚・子どもすべて卒業（未婚）”から“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”で高くなっている。（図表 I-13）

<図表 I-13> 最も重要なライフイベント [性・ライフステージ別]

		N	老後生活の充実	子どもの教育	趣味の充実	転職労・独立就業・再開職業・	結婚・再婚	進学・資格取得	改築住宅の購入や増	費車などの購入耐久消	も出つ産・子どもを	その他	わからない
			(単位: %)										
男	性	1,769	39.5	14.2	13.7	11.0	6.0	3.8	3.8	4.2	2.1	0.8	0.7
未	婚	458	21.4▲	1.1▲	20.7	22.5	15.1	4.8	3.5	8.3	1.5	0.2	0.9
既	婚・子どもなし	146	54.1	1.4▲	13.7	5.5▲	1.4▲	0.7▲	7.5	3.4	11.6	0.7	0.0
既	婚・末子未就学児	140	7.1▲	71.4	2.1▲	4.3▲	0.7▲	5.0	7.1	0.7▲	0.7	0.0	0.7
既	婚・末子小学生	129	16.3▲	59.7	5.4▲	1.6▲	2.3	10.1	3.1	0.0▲	0.8	0.0	0.8
既	婚・末子中学生、高校生	134	20.1▲	33.6	7.5▲	14.2	4.5	11.2	3.7	1.5	2.2	0.7	0.7
既	婚・末子短大・大学・大学院生	67	40.3	10.4	11.9	19.4	7.5	4.5	3.0	1.5	0.0	1.5	0.0
既	婚・子どもすべて卒業（未婚）	386	61.1	0.5▲	14.2	7.3▲	4.7	0.8▲	3.9	3.9	1.6	1.3	0.8
既	婚・子どもすべて卒業（既婚）	279	67.0	3.2▲	15.4	4.7▲	0.4▲	0.7▲	1.4▲	3.9	0.4▲	2.2	0.7
女	性	2,334	45.5	14.9	11.6	8.1	4.9	4.9	3.0	2.7	2.1	1.0	1.4
未	婚	308	23.7▲	1.0▲	16.9	23.4	19.8	5.5	2.3	1.6	4.2	0.3	1.3
既	婚・子どもなし	160	51.3	1.3▲	14.4	6.9	0.0▲	2.5	5.6	6.3	8.8	0.6	2.5
既	婚・末子未就学児	189	5.8▲	65.1	2.6▲	5.8	0.0▲	9.5	3.7	2.1	4.2	0.0	1.1
既	婚・末子小学生	224	10.3▲	61.2	2.2▲	5.8	0.4▲	14.7	2.2	1.8	0.4	0.0	0.9
既	婚・末子中学生、高校生	192	26.0▲	31.3	3.1▲	12.0	2.6	16.1	3.1	1.6	1.6	0.5	2.1
既	婚・末子短大・大学・大学院生	115	47.0	9.6	10.4	16.5	3.5	3.5	4.3	2.6	0.0	0.9	1.7
既	婚・子どもすべて卒業（未婚）	611	63.3	0.5▲	13.4	3.9▲	6.2	0.3▲	4.1	4.1	1.1	1.6	1.3
既	婚・子どもすべて卒業（既婚）	497	72.0	1.0▲	16.3	2.2▲	1.0▲	1.0▲	1.4▲	1.8	0.4▲	1.4	1.4

### (3) 最も重要なライフイベントに対する経済的準備状況

最も重要なライフイベントに対する現在の経済的準備状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

今お答えいただいた、最も重要なライフイベントに対する現在の経済的準備状況について、あなたご自身は、どのくらい達成できていると思いますか。

- (ア) 順調に準備できている
- (イ) ある程度準備できている
- (ウ) あまり準備ができていない
- (エ) まったく準備ができていない
- わからぬ

その結果、「準備できている」（“順調に準備できている”と“ある程度準備できている”の合計）は48.7%、「準備できていない」（“あまり準備ができていない”と“まったく準備ができていない”の合計）は50.1%となっている。

最も重要なライフイベントの種類別にみると、「準備できている」は“子どもの教育”“趣味の充実”“進学・資格取得”で5割台後半と高く、「準備できていない」は“結婚・再婚”で6割、“老後生活の充実”“就労・再就職・転職・独立開業”で5割と高くなっている。（図表I-14）

<図表I-14> 最も重要なライフイベントに対する経済的準備状況

(単位: %)

	N	で順調にい準備	ある程度の準備	準備できている	わからぬ	で準備できていな	で準備できていが	でまつてたいくな準備が
全体	4,057	7.0	41.7	48.7	1.2	50.1	38.8	11.3
老後生活の充実	1,761	5.3	39.8	45.1	1.2	53.7	40.6	13.1
子どもの教育	598	6.7	50.7	57.4	0.7	42.0	36.0	6.0
趣味の充実	513	12.1	47.6	59.6	0.4	40.0	33.1	6.8
就労・再就職・転職・独立開業	383	6.0	33.9	39.9	2.1	58.0	43.1	14.9
結婚・再婚	221	3.6	30.8	34.4	1.4	64.3	49.8	14.5
進学・資格取得	182	12.1	46.7	58.8	2.2	39.0	32.4	6.6
住宅の購入や増改築	138	7.2	37.0	44.2	1.4	54.3	40.6	13.8
車などの耐久消費財の購入	137	9.5	42.3	51.8	0.0	48.2	33.6	14.6
出産・子どもをもつ	86	10.5	39.5	50.0	0.0	50.0	34.9	15.1
その他	38	5.3	47.4	52.6	13.2	34.2	26.3	7.9

\*集計対象は18~79歳

### 3. 生活上の不安と経済的準備状況

#### (1) 生活上の不安項目

日ごろの生活や将来に向けて不安に感じていることを捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、日ごろの生活や将来に向けて、どのような点に不安をお持ちですか。この中からいくつでもお選びください。

それでは、今お答えいただいた中で、最も不安な点を1つだけお選びください。

- (ア) 自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること
- (イ) 家族の者が死亡するようなことが起こること
- (ウ) 自分が病気や事故にあうこと
- (エ) 家族の者が病気や事故にあうこと
- (オ) 自分の介護が必要となること
- (カ) 親の介護が必要となること
- (キ) 配偶者の介護が必要となること
- (ク) 年をとつて体の自由がきかなくなり、病気がちになること
- (ケ) 老後の生活が経済的に苦しくなること
- (コ) 交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたりすること
- (サ) その他

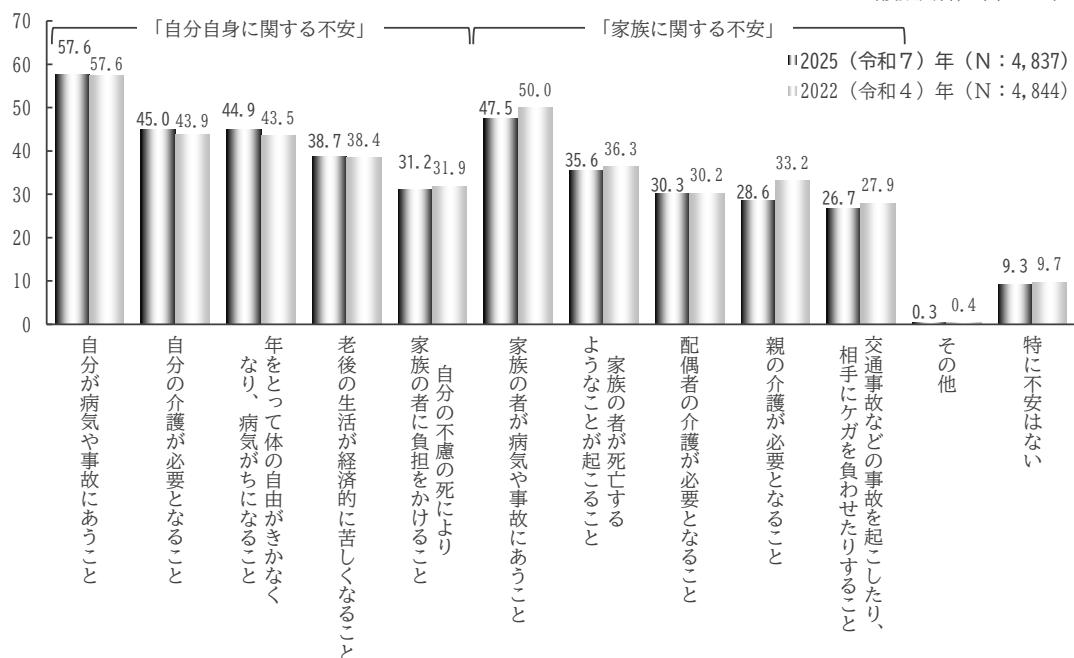
特に不安はない

その結果、自分自身に関する不安については、「自分が病気や事故にあうこと」が57.6%で最も高く、以下「自分の介護が必要となること」(45.0%)、「年をとつて体の自由がきかなくなり、病気がちになること」(44.9%)の順となっている。また、家族に関する不安項目についてみると、「家族の者が病気や事故にあうこと」(47.5%)が最も高く、「家族の者が死亡するようなことが起こること」(35.6%)、「配偶者の介護が必要となること」(30.3%)の順となっている。

前回と比較すると、「親の介護が必要となること」が4.6ポイント減少している。(図表I-15)

<図表I-15> 生活上の不安項目

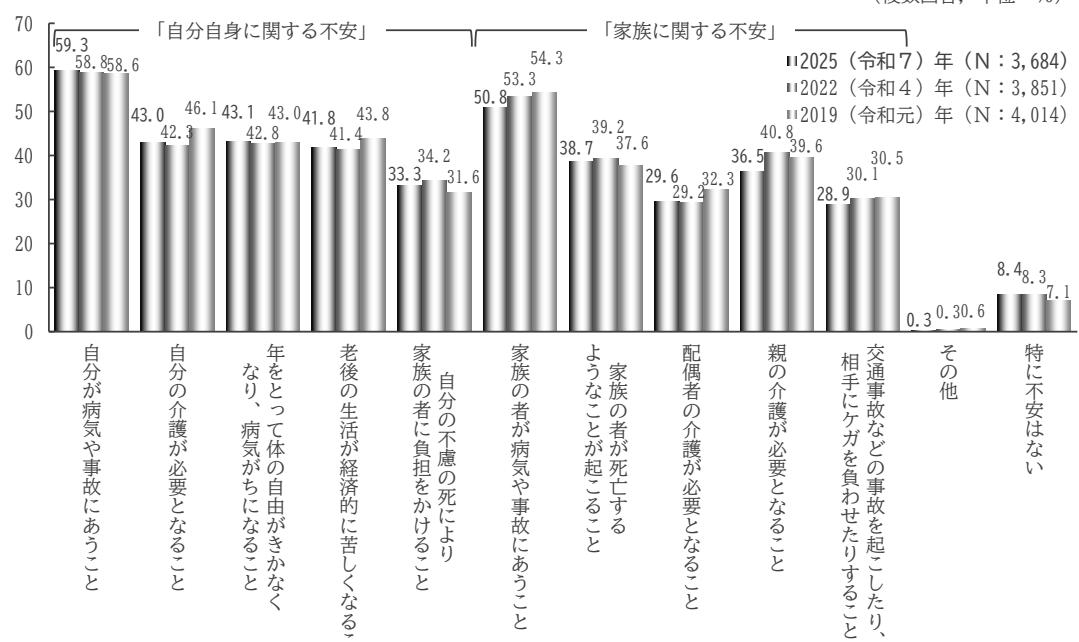
(複数回答、単位：%)



\*集計対象は18~79歳

【参考】時系列でみると、「家族の者が病気や事故にあうこと」が一貫して減少している。

(複数回答、単位: %)



\*2019 (令和元) 年以前と時系列比較するために、対象年齢を18~69歳として再集計した

性別にみると、多くの項目で女性の方が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「自分の介護が必要となること」、「年をとつて体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は概ね高年齢層ほど高く、「自分が病気や事故にあうこと」は男性の60歳代、女性の40～50歳代で、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は男性の40歳代、女性の40～50歳代で、それぞれ高くなっている。また、「家族の者が死亡するようなことが起こること」は男女とも30～40歳代で高くなっている。(図表I-16)

<図表I-16> 生活上の不安項目 [性・年齢別]

(複数回答、単位: %)

	N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他	特に不安はない
		自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	り年をとつて病気がちになることがきかなくなること	と老後の生活が経済的に苦しくなること	担自分のかけ不慮のこと死により家族の者が病気や事故にあうこと	家族の者が病気や事故にあうこと	家族の者が死するようことが起	配偶者の介護が必要となること	親の介護が必要となること	相手にケガなどを負わせたり起		
男性	2,101	56.2	40.2	42.0	35.5	32.9	41.3	30.7	25.2	26.9	24.1	0.4	10.9
20歳代	181	43.6▲	13.8▲	23.8▲	29.8	23.2▲	36.5	33.1	7.2▲	36.5	32.0	0.6	17.1
30歳代	225	60.4	27.6▲	31.6▲	34.2	38.2	51.1	40.4	15.6▲	45.8	29.3	0.0	7.1
40歳代	363	56.2	40.2	35.3▲	36.1	40.5	42.1	35.5	23.7	43.0	25.9	0.8	9.6
50歳代	406	60.3	41.1	47.5	43.6	36.2	42.1	31.3	25.6	38.2	24.6	0.2	7.6▲
60歳代	404	61.1	52.2	49.0	36.9	31.7	42.3	25.0▲	34.2	13.9▲	19.8▲	0.5	9.9
70歳代	485	52.8	47.2	50.7	31.1▲	28.5▲	37.3▲	26.0▲	31.8	4.1▲	20.6▲	0.4	13.2
女性	2,736	58.7	48.7	47.1	41.2	29.8	52.3	39.3	34.2	29.9	28.6	0.3	8.0
20歳代	165	46.7▲	17.0▲	27.9▲	33.9	12.7▲	43.6▲	44.2	10.3▲	38.8	23.0	0.6	18.2
30歳代	282	56.0	28.4▲	32.6▲	44.3	33.7	60.6	47.9	24.1▲	46.1	34.8	0.0	11.7
40歳代	438	64.4	42.5▲	40.2▲	46.1	40.2	63.2	50.0	34.9	58.0	33.6	0.0	4.1▲
50歳代	576	65.8	54.5	52.8	52.6	33.9	61.3	42.0	36.8	43.4	31.3	0.0	4.7▲
60歳代	579	60.6	61.8	57.0	43.9	31.1	52.0	39.0	44.9	15.5▲	31.6	0.3	4.8▲
70歳代	668	52.1▲	54.3	50.3	27.1▲	21.7▲	36.7▲	25.4▲	33.2	3.1▲	19.0▲	0.6	11.2

性・ライフステージ別にみると、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は男性では“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子短大・大学・大学院生”で、女性では“既婚・末子小学生”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で高くなっている。また、「自分が病気や事故にあうこと」は男性では“既婚・末子未就学児”および“既婚・子供すべて卒業（未婚）”で、女性では“既婚・末子小学生”で高く、「年をとつて体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は男女とも“既婚・子どもすべて卒業（未婚）”、“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”で高くなっている。（図表 I-17）

図表 I-17 生活上の不安項目〔性・ライフステージ別〕

		N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他の 特に不安はない	(複数回答、単位: %)
性	年齢		自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	年をとつて体の自由がきかなくなること	老後の生活がちにかかること	自分をかねて生活が経済的に苦しくなること	家族の者が死にかかること	家族の者が病気や事故にあうこと	配偶者が病気や事故にあうこと	親の介護が必要となること	相手に交通事故などの事故を負わせたり起ること		
男性	2,101	56.2	40.2	42.0	35.5	32.9	41.3	30.7	25.2	26.9	24.1	0.4	10.9	
未 婚	576	50.3▲	30.4▲	37.0▲	35.1	20.7▲	28.8▲	26.2▲	5.2▲	34.2	23.6	0.5	14.1	
既婚・子どもなし	180	55.6	42.2	47.8	37.2	35.6	40.0	27.8	29.4	24.4	24.4	0.0	12.2	
既婚・末子未就学児	144	67.4	37.5	29.2▲	31.9	50.7	61.1	44.4	27.1	44.4	30.6	0.0	4.9▲	
既婚・末子小学生	138	60.9	38.4	39.1	36.2	50.7	55.8	40.6	31.2	44.2	26.8	0.7	5.1▲	
既婚・末子中学生、高校生	139	64.0	44.6	38.8	38.8	43.2	46.0	37.4	28.1	36.7	28.8	1.4	7.9	
既婚・末子短大・大学・大学院生	70	64.3	52.9	45.7	42.9	44.3	48.6	32.9	35.7	34.3	25.7	0.0	0.0▲	
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	448	60.7	47.5	47.8	37.1	34.6	45.1	29.9	37.7	17.6▲	24.8	0.4	11.4	
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	366	51.1▲	45.1	47.0	31.7	29.8	42.6	29.0	34.2	9.6▲	19.4▲	0.3	11.2	
女性	2,736	58.7	48.7	47.1	41.2	29.8	52.3	39.3	34.2	29.9	28.6	0.3	8.0	
未 婚	362	53.0▲	35.4▲	39.5▲	42.5	22.1▲	39.8▲	35.4	6.4▲	42.3	26.8	0.3	13.0	
既婚・子どもなし	200	61.0	50.5	49.5	37.0	21.5▲	51.5	42.5	41.5	30.5	30.5	0.5	10.5	
既婚・末子未就学児	196	57.1	30.6▲	31.6▲	41.3	35.2	62.8	54.1	33.7	46.9	37.2	0.0	10.7	
既婚・末子小学生	229	67.2	37.1▲	37.1▲	47.2	44.5	67.2	52.0	34.9	51.5	33.6	0.0	4.8	
既婚・末子中学生、高校生	200	63.5	42.5	41.0	45.0	40.0	67.5	49.5	36.0	54.5	33.0	0.0	4.5	
既婚・末子短大・大学・大学院生	123	66.7	48.0	48.8	49.6	30.9	69.9	41.5	41.5	46.3	36.6	0.0	5.7	
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	721	60.1	57.8	54.9	45.6	32.0	54.8	38.8	43.3	21.8▲	27.6	0.4	6.2▲	
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	647	55.2▲	56.6	51.3	32.5▲	24.6▲	41.0▲	28.9▲	36.2	9.4▲	23.2▲	0.0	8.0	

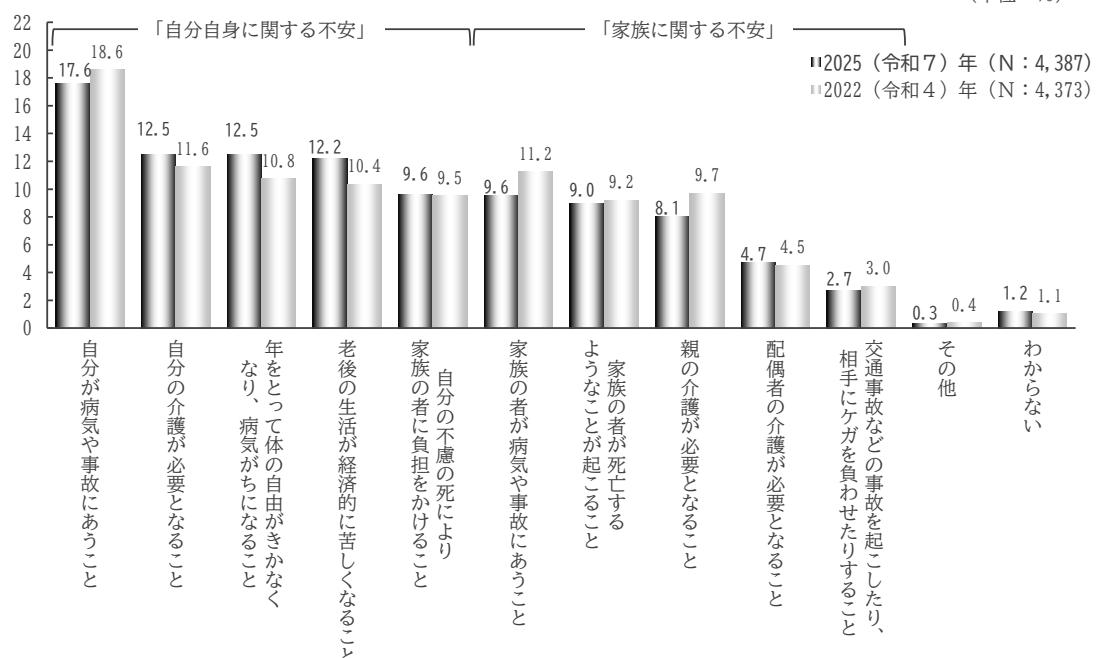
## (2) 最も不安な生活上の不安項目

最も不安に感じていることについてみると、自分自身に関する不安については「自分が病気や事故にあうこと」が 17.6%、「自分の介護が必要となること」、「年をとつて体の自由がきかなくなり、病気がちになること」がいずれも 12.5%、「老後の生活が経済的に苦しくなること」が 12.2%となっている。また、家族に関する不安については「家族の者が病気や事故にあうこと」が 9.6%、「家族の者が死亡するようなことが起こること」が 9.0%、「親の介護が必要となること」が 8.1%となっている。

前回と比較すると、「年をとつて体の自由がきかなくなり、病気がちになること」が 1.7 ポイント、「老後の生活が経済的に苦しくなること」が 1.8 ポイント増加し、「家族の者が病気や事故にあうこと」が 1.6 ポイント、「親の介護が必要となること」が 1.6 ポイント減少している。(図表 I-18)

<図表 I-18> 最も不安な生活上の不安項目

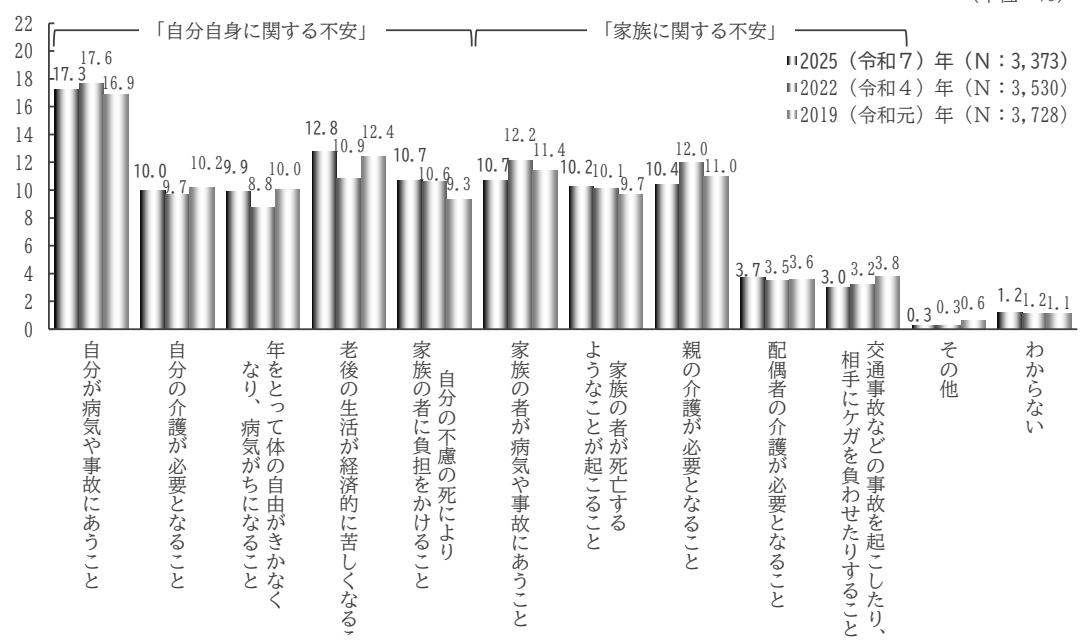
(単位: %)



\*集計対象は18~79歳

【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。

(単位: %)



\*2019 (令和元) 年以前と時系列比較するために、対象年齢を18~69歳として再集計した

性別にみると、男性で「自分が病気や事故にあうこと」、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」が、女性で「自分の介護が必要となること」、「家族の者が病気や事故にあうこと」、「家族の者が死亡するようなことが起こること」、「配偶者の介護が必要となること」が、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「親の介護が必要となること」は20~50歳代で、「自分の介護が必要となること」、「年をとつて体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は60~70歳代で高く、「家族の者が病気や事故にあうこと」、「家族の者が死亡するようなことが起こること」は男性20~30歳代、女性20~40歳代で高くなっている。(図表I-19)

<図表I-19> 最も不安な生活上の不安項目〔性・年齢別〕

		N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他	わからぬ
性別	年齢		自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	り年、を病とつがて体になる自由がとがきかなくなること	と老後の生活が経済的に苦しくなること	担自をかの不慮の死により家族の者に負けること	自をかの不慮の死により家族の者に負けること	家族の者が病気や事故にあうこと	家族の者が病気や事故にあうこと	親の介護が必要となること	配偶者の介護が必要となること		
男性	1,871	120.5	10.8	12.1	12.0	13.8	7.6	6.3	8.9	3.0	3.5	0.4	1.2	
20歳代	150	15.3	3.3▲	4.7▲	10.7	13.3	12.0	13.3	15.3	0.0▲	10.0	0.7	1.3	
30歳代	209	23.4	2.4▲	3.3▲	8.1	18.7	12.4	9.6	15.3	0.5▲	4.8	0.0	1.4	
40歳代	328	22.3	7.9	6.4▲	11.3	18.6	5.5	6.1	15.5	2.1	1.8	0.9	1.5	
50歳代	375	18.1	9.3	10.9	14.1	16.8	7.5	5.9	11.7	1.9	3.2	0.3	0.3	
60歳代	364	20.9	15.7	17.6	14.0	9.6▲	6.9	4.1	3.6▲	4.4	1.9	0.5	0.8	
70歳代	421	21.4	17.6	20.4	11.2	9.5▲	5.7	3.3▲	0.2▲	5.9	2.6	0.2	1.9	
女性	2,516	15.5	13.8	12.8	12.4	6.5	11.0	11.0	7.5	6.0	2.1	0.2	1.2	
20歳代	135	19.3	4.4▲	3.7▲	10.4	3.0	16.3	19.3	13.3	2.2	5.9	0.7	1.5	
30歳代	249	13.7	4.8▲	4.0▲	12.4	8.8	19.3	19.3	12.4	1.6▲	2.8	0.0	0.8	
40歳代	420	12.6	5.5▲	5.7▲	14.5	11.0	16.2	15.7	13.3	2.6▲	1.7	0.0	1.2	
50歳代	549	15.5	11.8	10.6	15.1	5.6	11.8	10.9	10.7	4.4	2.0	0.0	1.5	
60歳代	551	15.6	18.5	17.4	11.8	6.7	6.4▲	7.1▲	3.6▲	9.3	2.0	0.2	1.5	
70歳代	593	16.9	23.4	21.6	9.6▲	3.7▲	5.7▲	5.9▲	0.5▲	9.8	1.3	0.7	0.8	

性・ライフステージ別にみると、男女とも「自分の介護が必要となること」、「年をとつて体の自由がきかなくなり、病気がちになること」、「配偶者の介護が必要となること」は“既婚・子どもすべて卒業（未婚）”、“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”で、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”で、「老後の生活が経済的に苦しくなること」は“未婚”で、それぞれ高くなっている。また、「家族の者が死亡するようなことが起こること」は男性では“未婚”で、女性では“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”で高くなっている。（図表 I-20）

<図表 I-20> 最も不安な生活上の不安項目 [性・ライフステージ別]

		N	自分自身に関する不安						家族に関する不安					その他の わからない	(単位: %)
性	年齢		自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	り年を病気がてち体になれる自由がときかなくななること	と老後の生活が経済的に苦しくなること	担をかけること	自分の不慮の死により家族の者が死に苦しくなること	家族の者が病気や事故にあうこと	こ家族の者が死亡するようなことが起	親の介護が必要となること	配偶者の介護が必要となること	相交通事にケガなどを負わせたり起		
男性	1,871	20.5	10.8	12.1	12.0	13.8	7.6	6.3	8.9	3.0	3.5	0.4	1.2		
未婚	495	22.2	8.9	10.1	14.5	6.7▲	6.7	9.1	13.1	0.0▲	6.7	0.6	1.4		
既婚・子どもなし	158	22.2	13.3	13.9	8.2	15.2	8.2	1.9▲	10.1	4.4	1.3	0.0	1.3		
既婚・末子未就学児	137	17.5	4.4▲	1.5▲	7.3	25.5	13.9	9.5	13.9	3.6	2.2	0.0	0.7		
既婚・末子小学生	131	16.0	6.9	4.6▲	9.2	27.5	9.2	6.1	16.8	0.8	1.5	0.8	0.8		
既婚・末子中学生、高校生	128	21.9	10.2	7.8	5.5▲	23.4	6.3	7.0	9.4	2.3	3.1	1.6	1.6		
既婚・末子短大・大学・大学院生	70	20.0	7.1	8.6	14.3	17.1	7.1	10.0	10.0	2.9	1.4	0.0	1.4		
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	397	20.7	13.6	16.6	13.9	12.3	7.1	2.8▲	3.8▲	5.0	3.0	0.3	1.0		
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	325	19.7	15.1	18.2	11.7	10.8	7.1	5.8	2.2▲	5.5	2.8	0.3	0.9		
女性	2,516	15.5	13.8	12.8	12.4	6.5	11.0	11.0	7.5	6.0	2.1	0.2	1.2		
未婚	315	18.1	7.6▲	11.4	15.9	5.1	9.8	11.7	13.3	0.3▲	5.1	0.3	1.3		
既婚・子どもなし	179	17.3	11.2	12.8	14.0	2.2▲	11.2	12.3	7.8	7.3	2.8	0.6	0.6		
既婚・末子未就学児	175	9.1▲	5.1▲	3.4▲	10.9	10.3	22.9	20.0	11.4	4.6	1.7	0.0	0.6		
既婚・末子小学生	218	14.7	2.3▲	3.7▲	12.8	12.8	21.6	20.6	8.7	1.4▲	0.5	0.0	0.9		
既婚・末子中学生、高校生	191	13.1	7.9▲	2.6▲	9.9	10.5	14.1	18.3	15.7	3.7	2.1	0.0	2.1		
既婚・末子短大・大学・大学院生	116	18.1	10.3	9.5	12.9	5.2	17.2	8.6	11.2	4.3	1.7	0.0	0.9		
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	676	14.1	17.3	15.5	13.2	6.7	8.4▲	7.1▲	5.3▲	8.9	2.1	0.3	1.2		
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	595	17.6	23.0	20.0	9.7▲	3.9▲	5.2▲	6.6▲	2.2▲	8.7	1.3	0.0	1.7		

### (3) 最も不安な生活上の不安項目の経済的準備状況

最も不安と感じている項目に対する現在の経済的準備状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

今お答えいただいた、最も不安な点に対する現在の経済的準備状況について、あなたご自身は、どのくらい達成できていると思いますか。

- (ア) 順調に準備できている
- (イ) ある程度準備できている
- (ウ) あまり準備ができていない
- (エ) まったく準備ができていない
- わからぬ

その結果、「準備できている」（“順調に準備できている”と“ある程度準備できている”の合計）は 33.7%、「準備できていない」（“あまり準備ができていない”と“まったく準備ができていない”の合計）は 64.5%となっている。

最も不安に感じている項目別にみると、「準備できている」は多くの項目で 30%を超えており、なかで「老後の生活が経済的に苦しくなること」は 14.2%と最も低くなっている。（図表 I-21）

<図表 I-21> 最も不安な生活上の不安項目の経済的準備状況

(単位: %)

		N	順調に準備できている	ある程度準備できている	準備できている	わからぬ	準備できていない	あまり準備できていない	まったく準備できていない
全体		4,334	3.2	30.5	33.7	1.8	64.5	44.4	20.2
自分自身に関する不安	自分が病気や事故にあうこと	772	4.0	38.7	42.7	1.7	55.6	41.3	14.2
	自分の介護が必要となること	549	2.4	31.1	33.5	1.6	64.8	46.3	18.6
	年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること	547	4.0	34.2	38.2	2.0	59.8	43.5	16.3
	老後の生活が経済的に苦しくなること	536	0.7	13.4	14.2	1.1	84.7	50.4	34.3
	自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること	422	4.3	39.6	43.8	0.9	55.2	40.8	14.5
家族に関する不安	家族の者が病気や事故にあうこと	419	3.1	29.1	32.2	2.4	65.4	47.0	18.4
	家族の者が死亡するようなことが起こること	394	2.3	28.9	31.2	2.5	66.2	44.7	21.6
	親の介護が必要となること	354	1.4	22.3	23.7	0.8	75.4	46.3	29.1
	配偶者の介護が必要となること	207	3.4	32.9	36.2	2.4	61.4	45.4	15.9
	交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたりすること	120	11.7	36.7	48.3	2.5	49.2	25.8	23.3
その他		14	7.1	0.0	7.1	21.4	71.4	57.1	14.3

\*集計対象は18~79歳

## 4. 生活保障等の経済的準備に対する意識

医療保障、死亡保障、老後保障といった生活保障等の経済的準備に対する意識・行動を捉えるため、2つの考え方や行動を示し、以下のような形式で尋ねた。

ここに、生活保障等の経済的準備について、A、B 2つの考え方・行動があげられています。あなたのお考えや行動は、A、Bどちらに近いでしょうか。なお、ここで言う生活保障とは、老後の生活資金や万一の際、病気・ケガなど不測の事態のために経済的に備えることとします。

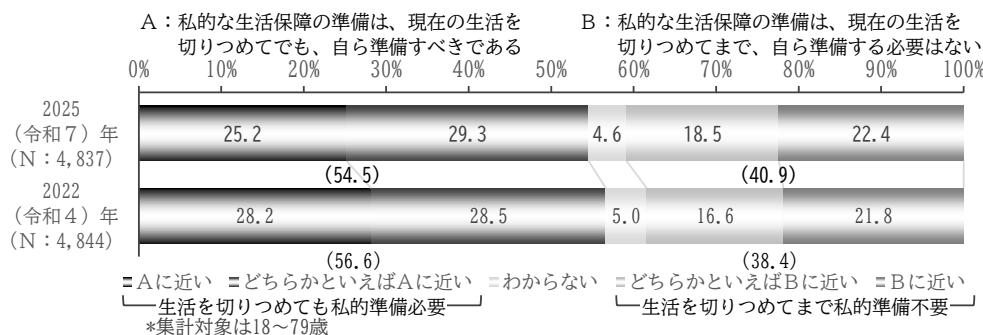
- (1) A : 私的な生活保障の準備は、現在の生活を切りつめてでも、自ら準備すべきである  
B : 私的な生活保障の準備は、現在の生活を切りつめてまで、自ら準備する必要はない
- (2) A : 計画を立てたら、着実に実行する方だ  
B : 計画を立てても、ずるずると先延ばししてしまう方だ
- (3) A : 損失する可能性があっても高い利益を追求したい  
B : 損失する可能性があるなら利益が低くても安全な方がよい
- (ア) Aに近い (イ) どちらかといえばAに近い (ウ) どちらかといえばBに近い (エ) Bに近い わからない

### (1) 私的な生活保障の準備に対する考え方

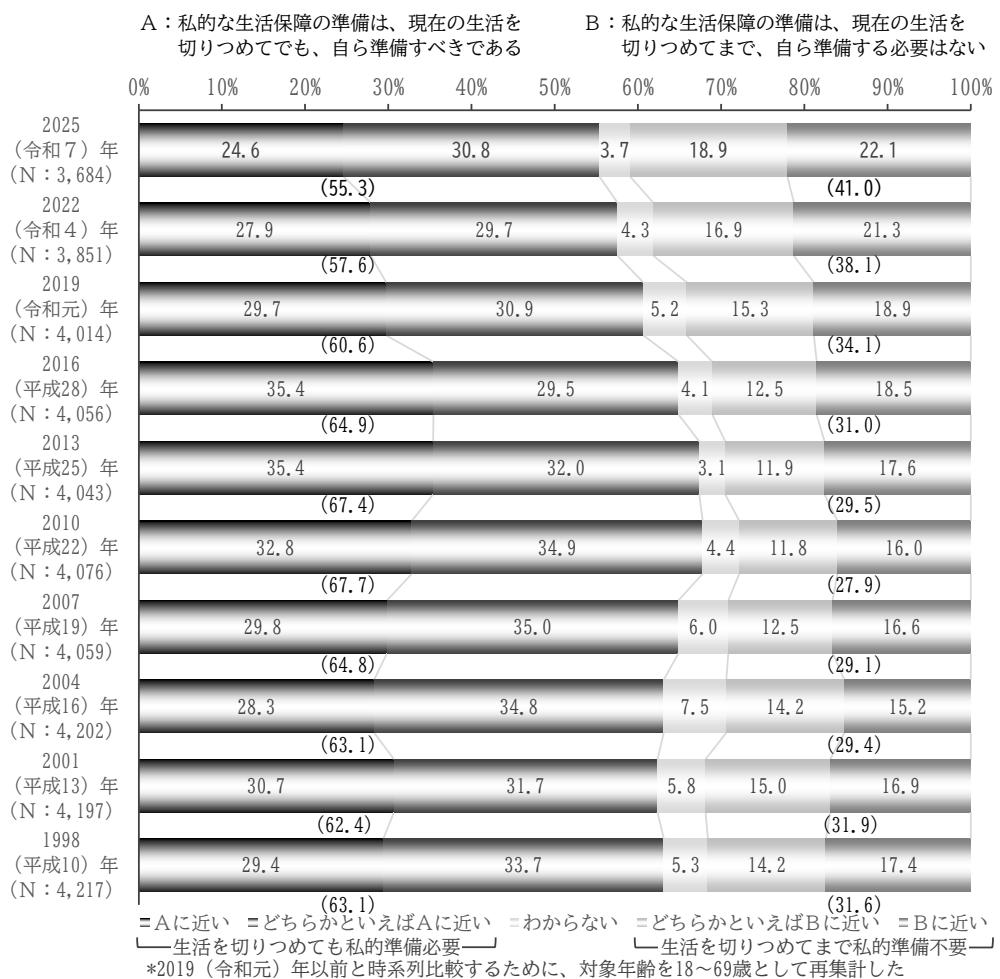
医療保障、死亡保障、老後保障といった生活保障について、現在の生活を切りつめても行う必要があると考えているかをみると、「生活を切りつめても私的準備必要」は 54.5%、「生活を切りつめてまで私的準備不要」は 40.9% となっている。

前回と比較すると、「生活を切りつめても私的準備必要」が 2.1 ポイント減少し、「生活を切りつめてまで私的準備不要」が 2.5 ポイント増加している。(図表 I-22)

<図表 I-22> 私的な生活保障の準備に対する考え方



【参考】時系列でみると、「生活を切りつめても私的準備必要」は2010（平成22）年以降、減少傾向が続いている、「生活を切りつめてまで私的準備不要」が2010（平成22）年以降、増加傾向が続いている。



性別にみても、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「生活を切りつめても私の準備必要」は男性60歳代、女性50歳代で、「生活を切り詰めてまで私の準備不要」は男性30歳代、女性20歳代で、それぞれ高くなっている。(図表I-23)

<図表 I-23> 私的な生活保障の準備に対する考え方 [性・年齢別]

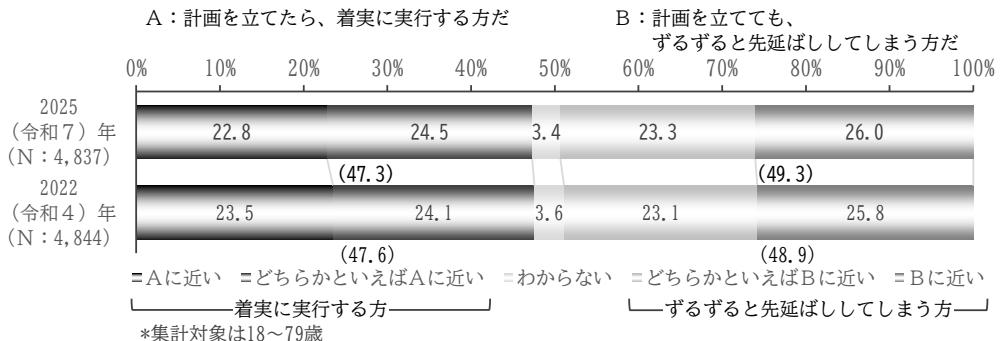
		N	(単位: %)							
			A に 近 い	ば ど A ち に ら 近 か い と い え	も 生 活 的 を 準 備 り 必 要 め て	わ か ら な い	ま 生 で 活 私 的 を 切 準 備 つ 不 め 要 て	ば ど B ち に ら 近 か い と い え	B に 近 い	
男 性	2,101	25.9	28.3	54.3	4.0	41.7	17.5	24.2		
20 歳 代	181	20.4	28.7	49.2	2.8	48.1	26.0	22.1		
30 歳 代	225	20.9	26.2	47.1▲	4.9	48.0	23.6	24.4		
40 歳 代	363	25.1	28.9	54.0	2.2	43.8	16.5	27.3		
50 歳 代	406	25.6	31.5	57.1	3.7	39.2	14.8	24.4		
60 歳 代	404	28.2	32.7	60.9	2.0▲	37.1▲	14.9	22.3		
70 歳 代	485	29.5	23.5▲	53.0	6.8	40.2	15.9	24.3		
女 性	2,736	24.6	30.1	54.7	5.1	40.2	19.2	21.0		
20 歳 代	165	13.3▲	30.9	44.2▲	3.6	52.1	29.7	22.4		
30 歳 代	282	23.4	31.9	55.3	3.5	41.1	21.3	19.9		
40 歳 代	438	21.2	32.6	53.9	3.0▲	43.2	24.0	19.2		
50 歳 代	576	27.6	32.3	59.9	3.6	36.5▲	15.8▲	20.7		
60 歳 代	579	27.6	30.2	57.9	5.7	36.4▲	15.9▲	20.6		
70 歳 代	668	25.3	25.7▲	51.0▲	8.1	40.9	18.1	22.8		

## (2) 計画に対する実行性

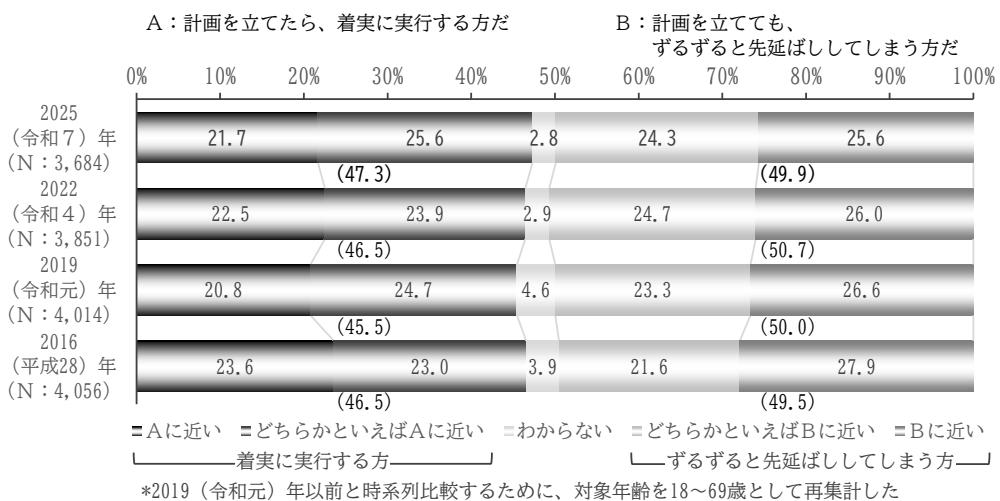
計画に対する実行性があると考えているかをみると、「着実に実行する方」は47.3%、「ずるずると先延ばししてしまう方」は49.3%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表I-24)

<図表I-24> 計画に対する実行性



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別に見ると、「着実に実行する方」は男性で、「ずるずると先延ばししてしまう方」は女性で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「ずるずると先延ばししてしまう方」は女性の60歳代で高くなっている。(図表I-25)

<図表 I-25> 計画に対する実行性 [性・年齢別]

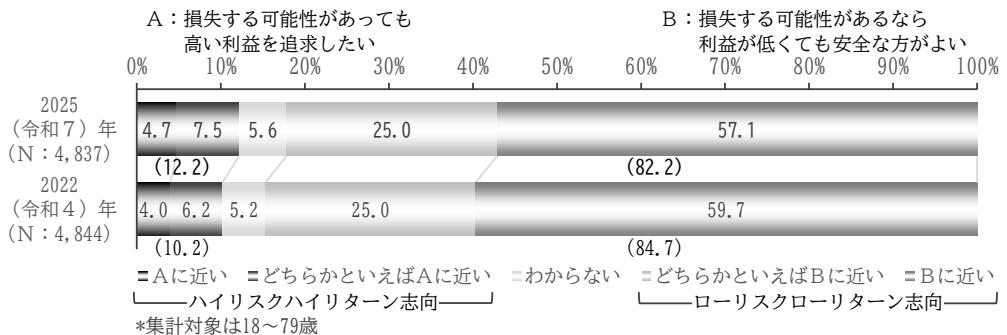
		N	(単位: %)							
			Aに近い	ばどAちら近かいといえ	着実に実行する方	わからぬい	しづしてずしるまとう先方延ば	ばどBちら近かいといえ	Bに近い	
男 性	2,101		24.4	25.4	49.7	3.1	47.1	21.7	25.5	
20歳代	181	21.0	28.7	49.7	1.1	49.2	24.3	24.9		
30歳代	225	22.2	26.7	48.9	3.1	48.0	23.6	24.4		
40歳代	363	23.7	27.0	50.7	2.2	47.1	22.6	24.5		
50歳代	406	25.1	25.1	50.2	2.5	47.3	23.9	23.4		
60歳代	404	25.0	25.7	50.7	2.2	47.0	20.5	26.5		
70歳代	485	26.4	21.4▲	47.8	5.6	46.6	18.6	28.0		
女 性	2,736	21.6	23.8	45.4	3.6	51.0	24.6	26.5		
20歳代	165	23.6	26.7	50.3	1.8	47.9	30.9	17.0▲		
30歳代	282	25.9	24.1	50.0	3.2	46.8	24.1	22.7		
40歳代	438	19.6	24.4	44.1	1.8▲	54.1	29.0	25.1		
50歳代	576	19.8	25.2	45.0	3.3	51.7	22.7	29.0		
60歳代	579	16.4▲	25.0	41.5▲	3.6	54.9	25.4	29.5		
70歳代	668	26.3	20.4▲	46.7	5.1	48.2	21.4▲	26.8		

### (3) リスクとリターンに対する考え方

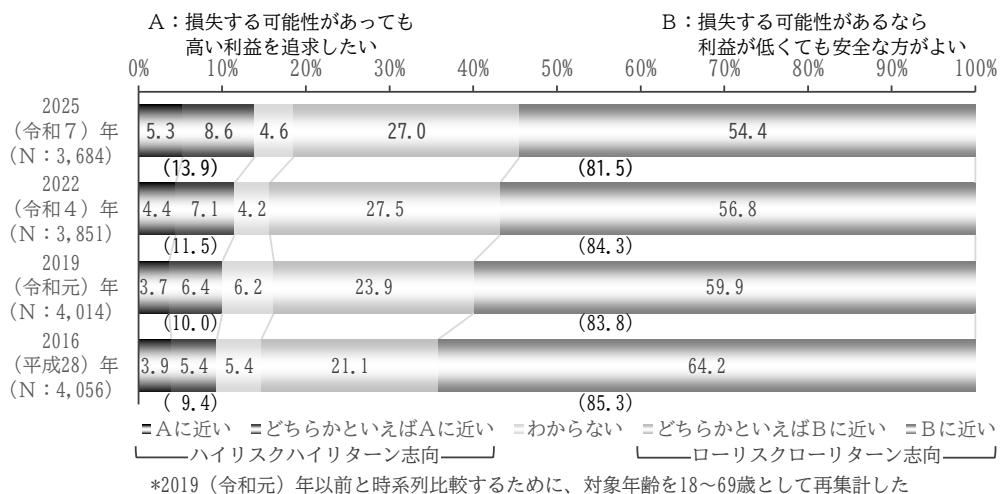
リスクとリターンに対する考え方をみると、「ハイリスクハイリターン志向」は12.2%、「ローリスクローリターン志向」は82.2%となっている。

前回と比較すると、「ハイリスクハイリターン志向」が2.0ポイント増加している。(図表I-26)

<図表I-26> リスクとリターンに対する考え方



【参考】時系列でみると、「ハイリスクハイリターン志向」が2016(平成28)年以降、一貫して増加傾向にある。



性別にみると、男性で「ハイリスクハイリターン志向」が17.3%と高く、女性で「ローリスクローリターン志向」が85.9%と高くなっている。

性・年齢別にみると、「ハイリスクハイリターン志向」は男性の20~40歳代、女性の20~30歳代で高くなっている。一方「ローリスクローリターン志向」は男性60~70歳代で高くなっている。(図表I-27)

<図表I-27> リスクとリターンに対する考え方〔性・年齢別〕

	N	(単位: %)							
		A に 近 い	ば ど A ち に ら 近 か い と い え	タ ハ ー イ リ ン リ 志 ス 向 ク ハ イ リ リ	わ か ら な い	タ ロ ー ン リ 志 ス 向 ク ロ ー リ	ば ど B ち に ら 近 か い と い え	B に 近 い	
男 性	2,101	7.4	9.9	17.3	5.3	77.3	24.9	52.5	
20歳代	181	14.4	13.3	27.6	1.7▲	70.7▲	33.7	37.0▲	
30歳代	225	8.0	15.1	23.1	5.8	71.1▲	29.3	41.8▲	
40歳代	363	6.9	15.7	22.6	2.8▲	74.7	26.4	48.2	
50歳代	406	10.1	8.9	19.0	4.4	76.6	25.9	50.7	
60歳代	404	5.0▲	7.9	12.9▲	5.2	81.9	23.3	58.7	
70歳代	485	4.5▲	4.1▲	8.7▲	9.1	82.3	18.6▲	63.7	
女 性	2,736	2.7	5.6	8.3	5.9	85.9	25.1	60.7	
20歳代	165	5.5	12.1	17.6	3.0	79.4▲	40.0	39.4▲	
30歳代	282	4.6	8.2	12.8	3.9	83.3	28.7	54.6▲	
40歳代	438	3.0	5.7	8.7	3.2▲	88.1	34.0	54.1▲	
50歳代	576	2.6	5.7	8.3	4.9	86.8	24.1	62.7	
60歳代	579	1.7	4.5	6.2▲	6.7	87.0	21.1▲	66.0	
70歳代	668	1.8	3.4▲	5.2▲	8.8	85.9	18.7▲	67.2	

## 5. 金融・保険に関する知識

自分自身の金融・保険に関する知識がどの程度かと認識しているかを捉えるため、以下の形式で尋ねた。

あなたは、金融や保険に関する知識をどの程度お持ちですか。この中からあてはまるものをそれぞれ1つお選びください。

(1) 金融について

(2) 保険について

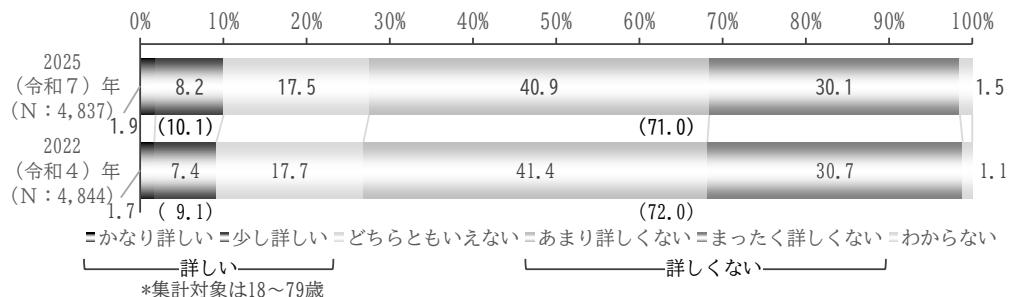
- (ア) かなり詳しい
- (イ) 少し詳しい
- (ウ) どちらともいえない
- (エ) あまり詳しくない
- (オ) まったく詳しくない
- わからない

### (1) 金融に関する知識の自己評価

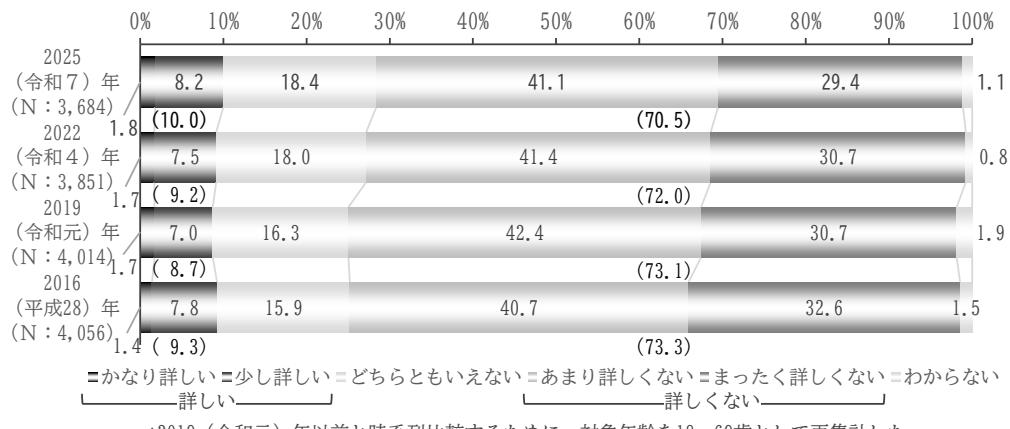
金融に関する知識の自己評価をみると、「詳しい」（「かなり詳しい」と「少し詳しい」と回答した人の合計）は10.1%、「詳しくない」（「あまり詳しくない」と「まったく詳しくない」と回答した人の合計）は71.0%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表I-28）

図表 I-28 金融に関する知識の自己評価



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別にみると、男性で「詳しい」が 14.4%と高く、女性で「詳しくない」が 76.6%と高くなっている。

性・年齢別にみると、「詳しくない」は男女とも 20 歳代で高くなっているほか、男性 70 歳代、女性 40 歳代でも高くなっている。(図表 I-29)

<図表 I-29> 金融に関する知識の自己評価〔性・年齢別〕

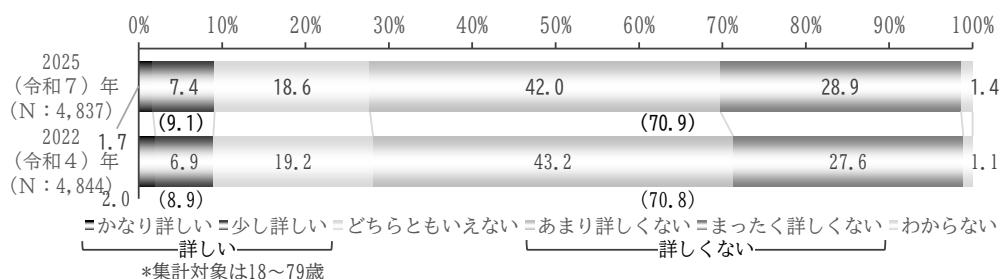
		N			詳しい	どちらともいえない	詳しくない	あまり詳しくない	まったく詳しくない	わからない	(単位: %)
性別	年齢		かなり詳しい	少し詳しい							
男 性	2,101	2.9	11.5	14.4	20.6	63.6	39.7	23.9	1.3		
20 歳代	181	1.1	7.7	8.8▲	19.9	70.7	39.8	30.9	0.6		
30 歳代	225	2.2	11.1	13.3	19.6	65.8	41.8	24.0	1.3		
40 歳代	363	3.3	13.2	16.5	23.1	59.5	36.4	23.1	0.8		
50 歳代	406	3.2	12.3	15.5	22.4	61.1	40.6	20.4	1.0		
60 歳代	404	3.5	13.4	16.8	24.0	58.7▲	41.3	17.3▲	0.5		
70 歳代	485	3.1	10.1	13.2	15.7▲	68.2	39.2	29.1	2.9		
女 性	2,736	1.1	5.7	6.7	15.1	76.6	41.7	34.9	1.6		
20 歳代	165	1.8	1.8▲	3.6	7.3▲	86.7	40.0	46.7	2.4		
30 歳代	282	1.1	6.7	7.8	16.7	73.8	35.5▲	38.3	1.8		
40 歳代	438	0.2	3.7▲	3.9▲	14.2	81.3	45.0	36.3	0.7		
50 歳代	576	1.0	7.5	8.5	16.7	73.6	40.3	33.3	1.2		
60 歳代	579	1.4	4.7	6.0	17.6	75.1	46.1	29.0▲	1.2		
70 歳代	668	1.2	6.9	8.1	13.9	75.6	40.9	34.7	2.4		

## (2) 保険に関する知識の自己評価

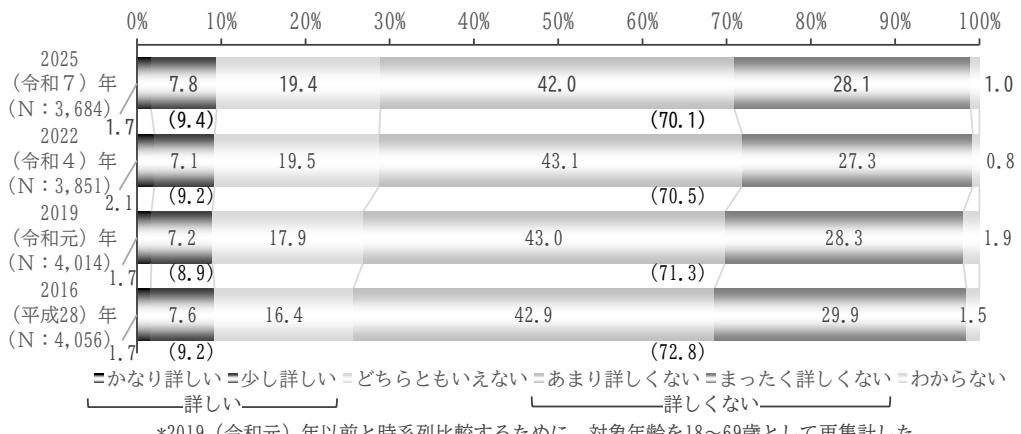
保険に関する知識の自己評価をみると、「詳しい」は 9.1%、「詳しくない」は 70.9%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表 I-30)

<図表 I-30> 保険に関する知識の自己評価



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別にみると、男性で「詳しい」が10.7%と高く、女性で「詳しくない」が74.2%と高くなっている。

性・年齢別にみると、「詳しい」は男性60歳代で高く、「詳しくない」は男女とも20歳代で高くなっている。（図表I-31）

<図表I-31> 保険に関する知識の自己評価〔性・年齢別〕

（単位：%）

	N								わからない
		かなり詳しい	少し詳しい	詳しい	どちらともいえない	詳しくない	あまり詳しくない	まったく詳しくない	
男 性	2,101	2.4	8.3	10.7	21.4	66.6	42.1	24.6	1.3
20歳代	181	0.0▲	6.1	6.1▲	13.8▲	(80.1)	45.9	(34.3)	0.0
30歳代	225	1.3	7.1	8.4	22.7	67.6	41.3	26.2	1.3
40歳代	363	3.3	8.3	11.6	(26.2)	61.4▲	38.3	23.1	0.8
50歳代	406	2.5	10.3	12.8	22.4	63.8	43.8	20.0▲	1.0
60歳代	404	3.2	10.6	(13.9)	24.0	61.6▲	44.1	17.6▲	0.5
70歳代	485	2.5	6.6	9.1	17.5▲	70.3	41.6	(28.7)	(3.1)
女 性	2,736	1.2	6.8	7.9	16.5	74.2	41.9	32.2	1.4
20歳代	165	0.6	3.6	4.2	10.3▲	(82.4)	33.3▲	(49.1)	3.0
30歳代	282	1.4	8.5	9.9	15.6	72.7	37.2	35.5	1.8
40歳代	438	0.9	6.8	7.8	17.4	74.2	42.0	32.2	0.7
50歳代	576	1.0	7.5	8.5	(20.1)	70.5▲	40.6	29.9	0.9
60歳代	579	1.4	7.1	8.5	16.9	73.6	(48.4)	25.2▲	1.0
70歳代	668	1.3	6.0	7.3	14.8	75.6	42.1	33.5	(2.2)

### (3) 生命保険や金融に関する知識量

生命保険や金融に関する知識量を捉えるため、以下の形式で尋ねた。

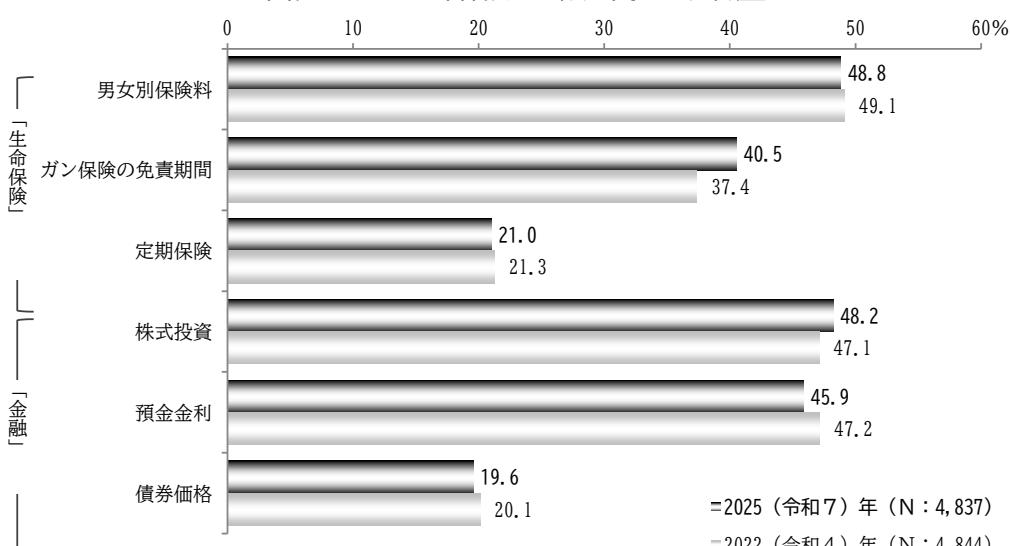
- ここにあげられている生命保険や金融に関する説明は正しいと思いますか。それとも間違っていると思いますか。
- (1) 生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間に差異はない……………以下「男女別保険料」
  - (2) 定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる……………以下「定期保険」
  - (3) ガン保険加入後、一定期間内はガンにかかっても保険金は支払われない……………以下「ガン保険の免責期間」
  - (4) 一般的に、1社の株式だけに投資する方が、多くの会社の株式に分散投資するよりも投資収益は安定する……………以下「株式投資」
  - (5) お金を預ける場合、金利が下降傾向にあるときは固定金利の商品が望ましい……………以下「預本金利」
  - (6) 一般に、利子率が上昇すると債券価格も上昇する……………以下「債券価格」
- (ア) 正しい  
(イ) 誤り  
わからない

それぞれの内容が正しいか誤りかを尋ねたところ、正答率は「男女別保険料」が48.8%で最も高く、以下「株式投資」(48.2%)、「預本金利」(45.9%)、「ガン保険の免責期間」(40.5%)の順となっている。

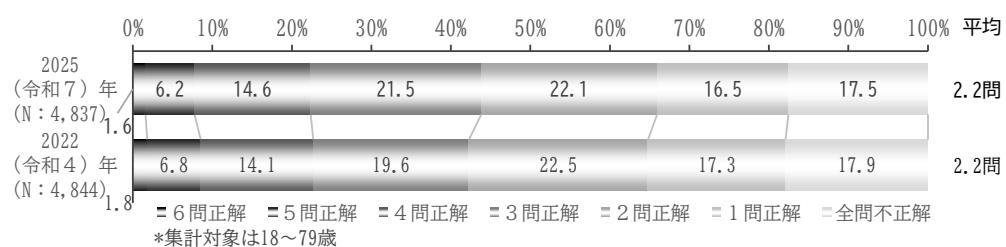
正答数の分布をみると、「2問正解」が22.1%で最も多く、以下「3問正解」(21.5%)、「全問不正解」(17.5%)、「1問正解」(16.5%)、「4問正解」(14.6%)の順となっている。

前回と比較すると、「ガン保険の免責期間」が3.1ポイント増加している以外は、大きな差異はみられない。(図表I-32)

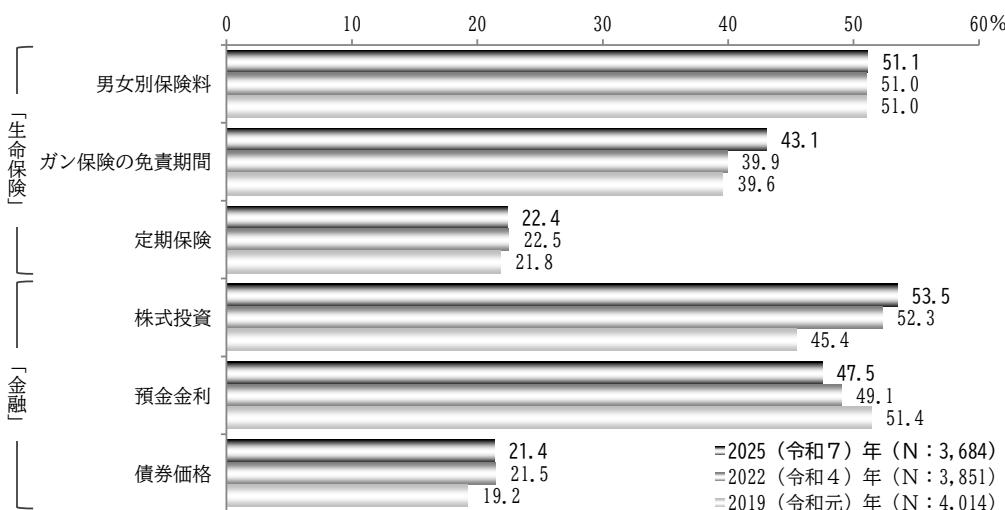
図表I-32 生命保険や金融に関する知識量



- 「男女別保険料」……………生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間に差異はない  
 「ガン保険の免責期間」……………ガン保険加入後、一定期間内はガンにかかっても保険金は支払われない  
 「定期保険」……………定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる  
 「株式投資」……………一般的に、1社の株式だけに投資する方が、多くの会社の株式に分散投資するよりも投資収益は安定する  
 「預本金利」……………お金を預ける場合、金利が下降傾向にあるときは固定金利の商品が望ましい  
 「債券価格」……………一般に、利子率が上昇すると債券価格も上昇する



【参考】時系列でみると、2019（令和元）年以降、「預金金利」の減少傾向と「株式投資」の増加傾向が続いている。



\*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

「男女別保険料」……生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間に差異はない

「ガン保険の免責期間」……ガン保険加入後、一定期間内はガンにかかると保険金は支払われない

「定期保険」……定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる

「株式投資」……一般的に、1社の株式だけに投資する方が、多くの会社の株式に分散投資するよりも投資収益は安定する

「預金金利」……お金を預ける場合、金利が下降傾向にあるときは固定金利の商品が望ましい

「債券価格」……一般に、利子率が上昇すると債券価格も上昇する



= 6問正解 = 5問正解 = 4問正解 = 3問正解 = 2問正解 = 1問正解 = 全問不正解

\*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

正答数の分布について性別にみると、男性で「6問正解」、「3問正解」が高く、女性で「1問正解」、「全問不正解」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも50歳代で「6問正解」が高く、女性30～50歳代で「5問正解」が、男性60歳代、女性40～50歳代で「4問正解」が高くなっている。また、男性40歳代で「3問正解」が高く、男女とも70歳代で「1問正解」、「全問不正解」が高くなっている。正答数の平均は男性では50～60歳代（2.6問）、女性では40～50歳代（2.4問）が最も高くなっている。（図表I-33）

図表I-33 生命保険や金融に関する知識量〔性・年齢別〕

(単位: %)									
	N	6問正解	5問正解	4問正解	3問正解	2問正解	1問正解	全問不正解	平均(問)
男 性	2,101	2.0	6.9	15.4	23.8	22.8	13.8	15.4	2.4
20歳代	181	1.1	7.7	12.2	26.5	26.0	11.0	15.5	2.4
30歳代	225	2.2	8.0	15.6	25.3	24.0	13.8	11.1	2.5
40歳代	363	1.9	8.5	13.8	28.7	21.2	14.9	11.0▲	2.5
50歳代	406	3.4	7.4	17.7	26.4	21.9	12.3	10.8▲	2.6
60歳代	404	2.2	7.7	18.6	23.5	25.0	10.1▲	12.9	2.6
70歳代	485	1.2	4.3▲	13.0	16.5▲	21.6	18.4	24.9	1.9
女 性	2,736	1.2	5.6	14.0	19.7	21.6	18.6	19.2	2.1
20歳代	165	1.2	5.5	15.8	21.8	20.0	17.6	18.2	2.2
30歳代	282	1.1	8.2	15.6	19.1	24.1	15.2	16.7	2.3
40歳代	438	0.7	8.0	18.0	21.7	21.7	16.4	13.5▲	2.4
50歳代	576	2.1	7.8	17.7	20.3	18.6▲	16.5	17.0	2.4
60歳代	579	1.7	3.8▲	14.0	20.4	24.2	19.3	16.6	2.1
70歳代	668	0.4▲	2.8▲	7.3▲	17.5	21.3	22.8	27.8	1.6

## 6. 失業・休業・廃業経験の有無

自身の失業・休業・廃業経験とその理由を捉えるため、以下の形式で尋ねた。

ここにあげた原因により、あなたご自身が失業・休業・廃業を経験されたことはありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

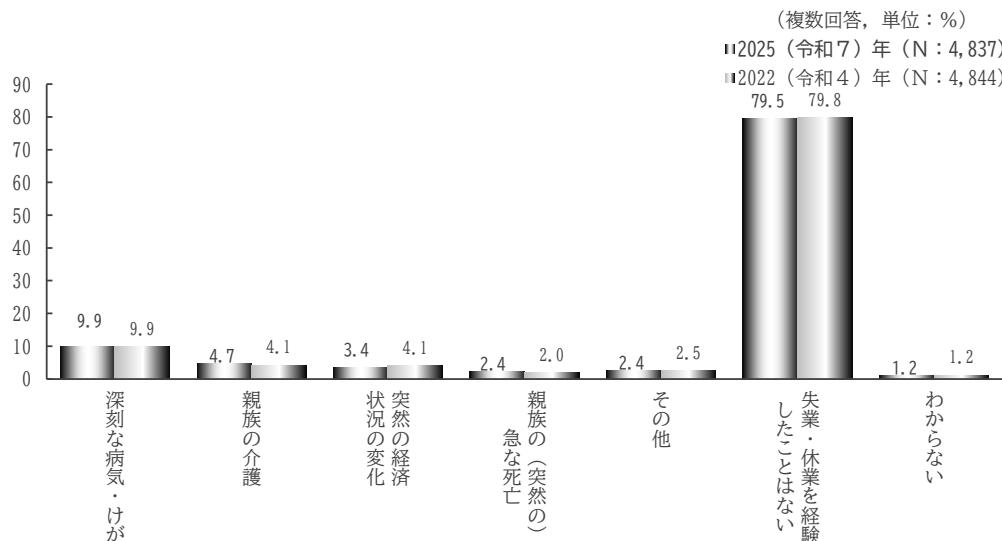
- (ア) 深刻な病気・けが
- (イ) 親族の介護
- (ウ) 親族の（突然の）急な死亡
- (エ) 突然の経済状況の変化
- (オ) その他
- (カ) 失業・休業を経験したことはない
- わからない

### (1) あなた自身の経験

自身の失業・休業・廃業経験とその理由を尋ねたところ、「深刻な病気・けが」が9.9%で最も高く、以下「親族の介護」(4.7%)、「突然の経済状況の変化」(3.4%)、「親族の（突然の）急な死亡」(2.4%)の順となっている。なお、「失業・休業を経験したことはない」は79.5%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表I-34)

<図表I-34> あなた自身の経験



性別にみると、女性で「親族の介護」、「親族の（突然の）急な死亡」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも60歳代で「突然の経済状況の変化」が高く、男性70歳代、女性50歳代で「深刻な病気・けが」が、男性60歳代、女性50～60歳代で「親族の介護」が、それぞれ高くなっている。（図表I-35）

<図表I-35> あなた自身の経験 [性・年齢別]

（複数回答、単位：%）

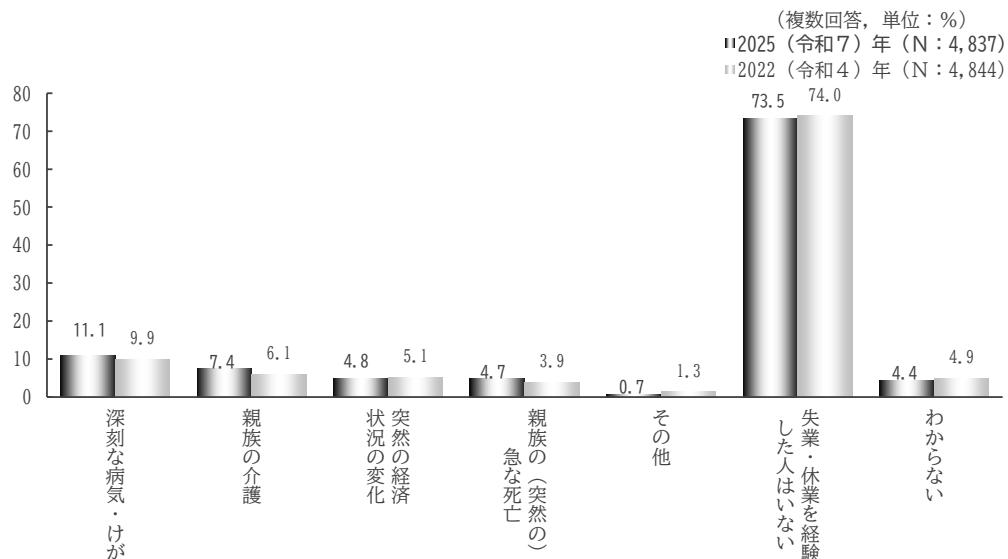
	N	深刻な病気・けが	親族の介護	変化の経済状況の	急な死の亡（突然の）	その他	し失た業こと休は業なをい経験	わからぬ
男 性	2,101	10.0	3.4	3.6	1.4	2.3	81.2	0.8
20歳代	181	4.4▲	1.1	0.6▲	1.7	0.0▲	90.6	2.2
30歳代	225	4.4▲	1.8	3.6	0.4	3.1	86.7	0.0
40歳代	363	7.2▲	1.7▲	3.6	1.1	1.9	85.7	0.3
50歳代	406	11.8	3.2	3.9	2.0	3.7	76.6▲	1.2
60歳代	404	12.1	7.4	5.2	2.2	3.2	76.2▲	0.5
70歳代	485	14.4	3.3	3.3	1.0	1.4	78.6	0.6
女 性	2,736	9.9	5.7	3.3	3.1	2.5	78.3	1.5
20歳代	165	6.1	0.6▲	2.4	0.0▲	0.6	87.3	3.6
30歳代	282	7.4	2.8▲	3.9	2.1	3.5	81.9	1.4
40歳代	438	7.5	2.7▲	2.1	2.1	3.7	84.0	0.7
50歳代	576	12.3	8.0	2.8	4.2	2.4	75.5	1.0
60歳代	579	11.2	10.0	5.2	3.8	2.6	71.2▲	1.9
70歳代	668	10.3	4.8	3.0	3.3	1.8	78.4	1.5

## (2) 家族・友人・知人による経験

家族・友人・知人の失業・休業・廃業経験とその理由を「失業・休業を経験したことない」を含む7項目をあげて尋ねたところ、「深刻な病気・けが」が11.1%で最も高く、以下「親族の介護」(7.4%)、「突然の経済状況の変化」(4.8%)、「親族の（突然の）急な死亡」(4.7%)の順となっている。なお、「失業・休業を経験したことない」は73.5%となっている。

前回と比較すると、「親族の介護」が1.3ポイント増加している。(図表I-36)

<図表I-36> 家族・友人・知人による経験



性別にみると、女性で「親族の介護」、「親族の（突然の）急な死亡」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性60歳代、女性50～60歳代で「親族の介護」が高く、男性40歳代、女性60歳代で「深刻な病気・けが」が、女性60歳代で「親族の（突然の）急な死亡」が、それぞれ高くなっている。(図表I-37)

<図表I-37> 家族・友人・知人による経験 [性・年齢別]

		N	深刻な病気・けが	親族の介護	突然の経済状況の変化	親族の（突然の）急な死亡	その他	失業・休業を経験した人はいない	わからない
性	年齢								
男	性	2,101	10.8	5.7	4.4	3.8	0.9	75.1	4.2
20	歳代	181	5.5▲	2.8	2.2	1.7	0.6	86.7	1.7
30	歳代	225	12.0	4.9	1.8▲	3.1	0.9	76.0	4.0
40	歳代	363	14.0	5.0	4.4	3.3	0.6	73.6	4.1
50	歳代	406	12.6	6.2	5.4	5.4	2.0	69.5▲	5.2
60	歳代	404	11.6	9.4	5.0	4.0	1.0	72.5	4.0
70	歳代	485	8.0▲	4.7	5.6	3.7	0.2	77.3	4.7
女	性	2,736	11.3	8.7	5.0	5.5	0.7	72.2	4.5
20	歳代	165	6.7	2.4▲	1.8	1.2▲	0.6	84.8	3.0
30	歳代	282	11.7	6.4	5.3	3.2	1.4	74.5	4.3
40	歳代	438	9.8	5.0▲	4.3	3.7	1.1	75.3	4.1
50	歳代	576	13.4	11.8	6.4	6.3	0.7	69.4	3.8
60	歳代	579	14.2	12.6	5.5	7.4	0.3	66.5▲	4.8
70	歳代	668	9.3	7.8	4.8	6.4	0.3	72.5	5.5

## 7. 健康状態・運動習慣・食習慣

自身の現在の健康状態・運動習慣・食習慣について、同年代の平均的な人と比べたときの状況を捉えるため、以下の形式で尋ねた。

次のそれぞれについて、同年代の平均的な人と比べたときのあなたの状況についてお答えください。

- (1) あなたの健康状態
- (2) あなたの運動習慣
- (3) あなたの食習慣 (健康的な食事)
  - (ア) 優れている
  - (イ) 同程度
  - (ウ) 劣っている
  - (エ) わからない・答えたたくない

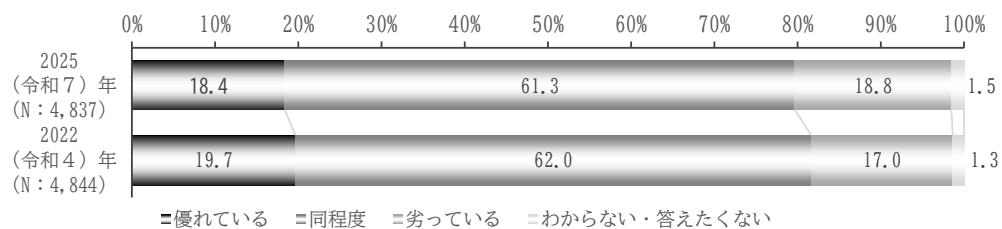
### (1) 現在の健康状態・運動習慣・食習慣

#### ① 現在の健康状態

自身の現在の健康状態について、同年代の平均的な人と比べたときの状況を尋ねたところ、「優れている」は18.4%、「劣っている」は18.8%となっている。なお「同程度」は61.3%となっている。

前回と比較すると、「劣っている」が1.8ポイント増加している。(図表 I-38)

<図表 I-38> 現在の健康状態



性別にみると、男性で「優れている」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性20歳代、女性20~30歳代で「優れている」が高く、男性の70歳代、女性の60~70歳代で「劣っている」が高くなっている。(図表 I-39)

<図表 I-39> 現在の健康状態 [性・年齢別]

(単位: %)

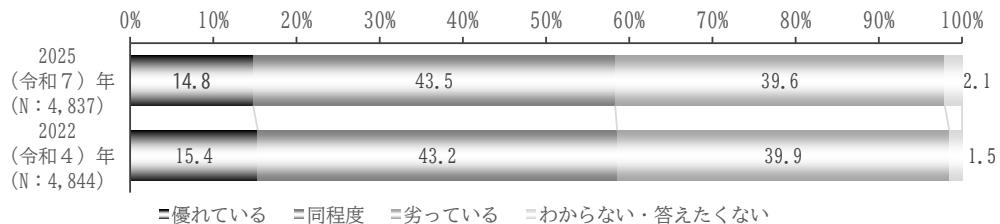
	N	優れている	同程度	劣っている	わからない・答えたたくない
男 性	2,101	20.1	60.4	17.8	1.6
20 歳 代	181	33.1	54.1	11.0▲	1.7
30 歳 代	225	22.2	62.2	13.8	1.8
40 歳 代	363	20.7	64.5	13.2▲	1.7
50 歳 代	406	17.5	62.3	18.5	1.7
60 歳 代	404	13.4▲	65.1	20.5	1.0
70 歳 代	485	19.4	54.8▲	23.7	2.1
女 性	2,736	17.0	62.0	19.5	1.5
20 歳 代	165	32.7	55.2	11.5▲	0.6
30 歳 代	282	21.6	63.8	13.5▲	1.1
40 歳 代	438	16.7	67.4	15.5▲	0.5
50 歳 代	576	14.9	64.4	19.4	1.2
60 歳 代	579	12.8▲	61.8	23.1	2.2
70 歳 代	668	16.3	57.5▲	24.1	2.1

## ②現在の運動習慣

自身の現在の運動習慣について、同年代の平均的な人と比べたときの状況を尋ねたところ、「優れている」は14.8%、「劣っている」は39.6%となっている。なお「同程度」は43.5%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表I-40)

<図表I-40> 現在の運動習慣



性別にみると、男性で「優れている」、「同程度」が、女性で「劣っている」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性の20歳代、女性の70歳代で「優れている」が高く、男性の50歳代、女性の30~40歳代で「劣っている」が高くなっている。(図表I-41)

<図表I-41> 現在の運動習慣〔性・年齢別〕

(単位: %)

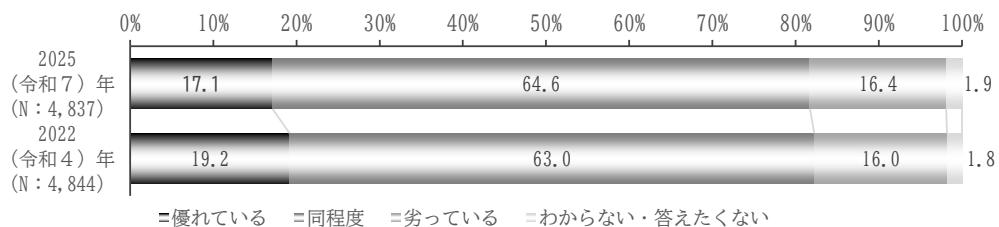
	N	優れている	同程度	劣っている	わからない・答えたくない
男 性	2,101	17.5	45.3	35.6	1.6
20歳代	181	26.5	37.6▲	35.4	0.6
30歳代	225	16.0	41.8	41.3	0.9
40歳代	363	17.4	46.6	35.0	1.1
50歳代	406	15.3	43.3	40.1	1.2
60歳代	404	14.9	51.0	33.2	1.0
70歳代	485	17.5	47.0	32.0	3.5
女 性	2,736	12.7	42.2	42.7	2.4
20歳代	165	16.4	41.2	41.2	1.2
30歳代	282	7.1▲	42.9	48.6	1.4
40歳代	438	10.5	38.4	48.9	2.3
50歳代	576	12.0	40.6	44.8	2.6
60歳代	579	12.3	42.5	42.1	3.1
70歳代	668	16.9	44.9	35.5▲	2.7

### ③現在の食習慣

自身の現在の食習慣について、同年代の平均的な人と比べたときの状況を尋ねたところ、「優れている」は17.1%、「劣っている」は16.4%となっている。なお「同程度」は64.6%となっている。

前回と比較すると、「優れている」が2.1ポイント減少している。(図表 I-42)

<図表 I-42> 現在の食習慣



性別にみると、男性で「劣っている」が、女性で「同程度」が高くなっている。

性・年齢別にみると、女性70歳代で「優れている」が高くなっている。また、男女とも30歳代で「劣っている」が高くなっている。(図表 I-43)

<図表 I-43> 現在の食習慣〔性・年齢別〕

(単位: %)

	N	優れている	同程度	劣っている	わからない・答えたくない
男 性	2,101	17.3	62.5	18.1	2.1
20 歳 代	181	21.0	58.0	19.9	1.1
30 歳 代	225	15.6	55.6▲	26.2	2.7
40 歳 代	363	16.8	63.9	17.9	1.4
50 歳 代	406	14.3	64.5	20.2	1.0
60 歳 代	404	14.6	69.6	13.6▲	2.2
70 歳 代	485	20.2	59.8	16.3	3.7
女 性	2,736	17.0	66.3	15.0	1.8
20 歳 代	165	21.2	62.4	16.4	0.0
30 歳 代	282	14.2	64.9	20.2	0.7
40 歳 代	438	12.6▲	68.3	17.8	1.4
50 歳 代	576	14.6	67.4	16.5	1.6
60 歳 代	579	15.0	68.6	13.6	2.8
70 歳 代	668	23.5	63.6	10.5▲	2.4

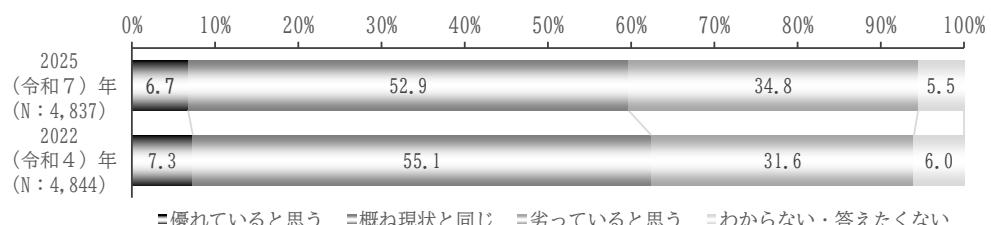
## (2) 5年後の健康状態・運動習慣・食習慣

### ① 5年後の健康状態

自身の5年後の健康状態について、現在の自分の状況と比べたときの予想を尋ねたところ、「優れていると思う」は6.7%、「劣っていると思う」は34.8%となっている。なお「概ね現状と同じ」は52.9%となっている。

前回と比較すると、「劣っていると思う」が3.2ポイント増加している。(図表I-44)

<図表I-44> 5年後の健康状態



性別にみると、男性で「優れていると思う」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性20歳代、女性20~30歳代で「優れていると思う」が高く、男女とも60~70歳代で「劣っていると思う」が高くなっている。(図表I-45)

<図表I-45> 5年後の健康状態 [性・年齢別]

(単位: %)

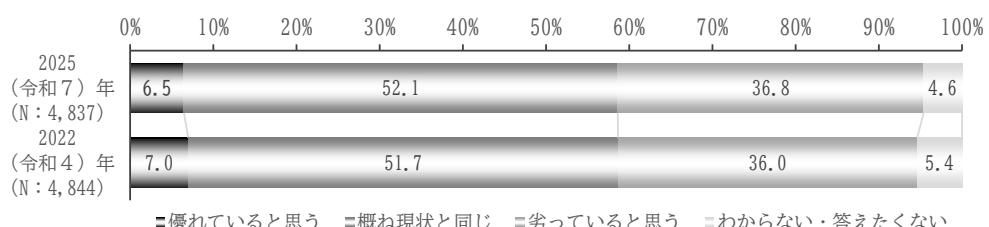
	N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたくない
男 性	2,101	8.1	52.9	33.6	5.4
20 歳 代	181	22.7	60.8	14.9▲	1.7▲
30 歳 代	225	8.0	64.9	24.0▲	3.1
40 歳 代	363	8.0	60.9	27.5▲	3.6
50 歳 代	406	8.4	56.4	33.0	2.2▲
60 歳 代	404	4.5▲	50.5	39.6	5.4
70 歳 代	485	4.1▲	36.5▲	47.2	12.2
女 性	2,736	5.7	52.9	35.8	5.6
20 歳 代	165	19.4	70.3	7.9▲	2.4
30 歳 代	282	8.5	64.5	23.4▲	3.5
40 歳 代	438	7.3	62.6	27.9▲	2.3▲
50 歳 代	576	5.0	56.4	34.0	4.5
60 歳 代	579	2.8▲	48.7▲	43.2	5.4
70 歳 代	668	2.5▲	37.1▲	49.4	10.9

## ②5年後の運動習慣

自身の5年後の運動習慣について、現在の自分の状況と比べたときの予想を尋ねたところ、「優れていると思う」は6.5%、「劣っていると思う」は36.8%となっている。なお「概ね現状と同じ」は52.1%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表I-46)

<図表I-46> 5年後の運動習慣



性別にみると、男性で「優れていると思う」、「概ね現状と同じ」が、女性で「劣っていると思う」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性の20~30歳代、女性の20歳代で「優れていると思う」が高く、男女とも60~70歳代で「劣っていると思う」が高くなっている。(図表I-47)

<図表I-47> 5年後の運動習慣 [性・年齢別]

(単位: %)

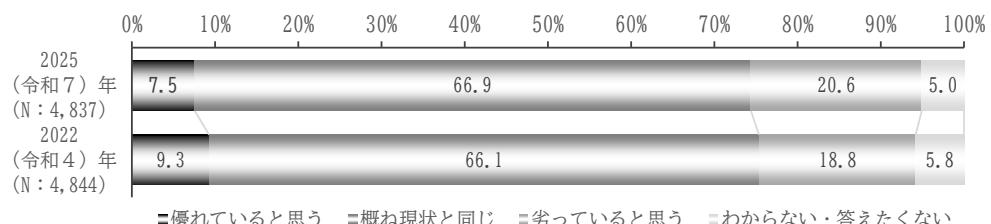
	N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたくない
男 性	2,101	7.9	54.3	33.5	4.3
20歳代	181	18.2	61.3	18.8▲	1.7
30歳代	225	11.6	58.7	27.1▲	2.7
40歳代	363	8.5	64.7	23.1▲	3.6
50歳代	406	8.9	54.4	34.5	2.2▲
60歳代	404	4.5▲	52.5	39.1	4.0
70歳代	485	3.1▲	43.3▲	44.9	8.7
女 性	2,736	5.4	50.5	39.3	4.8
20歳代	165	11.5	66.7	20.0▲	1.8
30歳代	282	6.4	60.6	29.1▲	3.9
40歳代	438	6.2	56.4	35.8	1.6▲
50歳代	576	6.8	54.2	35.6▲	3.5
60歳代	579	3.8	46.1▲	44.0	6.0
70歳代	668	3.1▲	38.3▲	50.1	8.4

### ③5年後の食習慣

自身の5年後の食習慣について、現在の自分の状況と比べたときの予想を尋ねたところ、「優れていると思う」は7.5%、「劣っていると思う」は20.6%となっている。なお「概ね現状と同じ」は66.9%となっている。

前回と比較すると、「劣っていると思う」が1.8ポイント減少している。(図表I-48)

<図表I-48> 5年後の食習慣



性別にみても、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、男女とも20歳代で「優れていると思う」が高く、70歳代で「劣っていると思う」が高くなっている。(図表I-49)

<図表I-49> 5年後の食習慣【性・年齢別】

(単位：%)

	N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたたくない
男 性	2,101	8.0	66.8	19.8	5.4
20 歳 代	181	13.8	71.8	12.2▲	2.2▲
30 歳 代	225	9.8	65.3	21.8	3.1
40 歳 代	363	6.6	77.1	12.7▲	3.6
50 歳 代	406	8.6	68.7	19.7	3.0▲
60 歳 代	404	5.7	66.3	23.0	5.0
70 歳 代	485	6.0	57.9▲	24.5	11.5
女 性	2,736	7.1	66.9	21.2	4.8
20 歳 代	165	13.9	77.6	7.9▲	0.6▲
30 歳 代	282	7.4	75.2	14.9▲	2.5
40 歳 代	438	8.2	74.9	15.1▲	1.8▲
50 歳 代	576	7.3	69.6	20.0	3.1▲
60 歳 代	579	4.5▲	65.6	23.7	6.2
70 歳 代	668	6.3	54.0▲	30.5	9.1